

1. 別売部品一覧 (室外ユニット) .....	F-2
2. 冷媒関連部品	
(1) 分岐配管セット (3WAY マルチ用) .....	F-3
(2) ヘッダー配管セット (3WAY マルチ用) .....	F-5
(3) 電磁弁キット (3WAY マルチ用) .....	F-7
(4) 電磁弁キット (3WAY マルチ用) .....	F-15
(5) 外付電動弁キット .....	F-23
3. 室外ユニット関連部品	
(1) 排気延長キット (SGP-PEX560K) .....	F-30
(2) 単相キット .....	F-38
(3) 遠隔監視アダプター取付金具 (CZ-CAPMB) .....	F-40

# 1. 別売部品一覧(室外ユニット)

# 別売部品編

品名	品番
分岐配管セット	APR-RZP224B APR-RZP680B APR-RZP1350B APR-P160B
ヘッダー配管セット	SGP-HCHZ560M SGP-HCH280M
外付電動弁キット	ATK-SVRK36B ATK-SVRK56BN ATK-SVRK160B
排気延長キット	SGP-PEX560K
単相キット	CZ-GTK560U
遠隔監視アダプター取付金具	CZ-CAPMB

※室内ユニットごとに、下記の部品が必要です。

品名	品番
電磁弁キット	CZ-R56BU4G CZ-P160BU4
電磁弁出力基板	ACC-3WAY-B1/EQ2/B2/EK

## 2. 冷媒関連部品

## 別売部品編

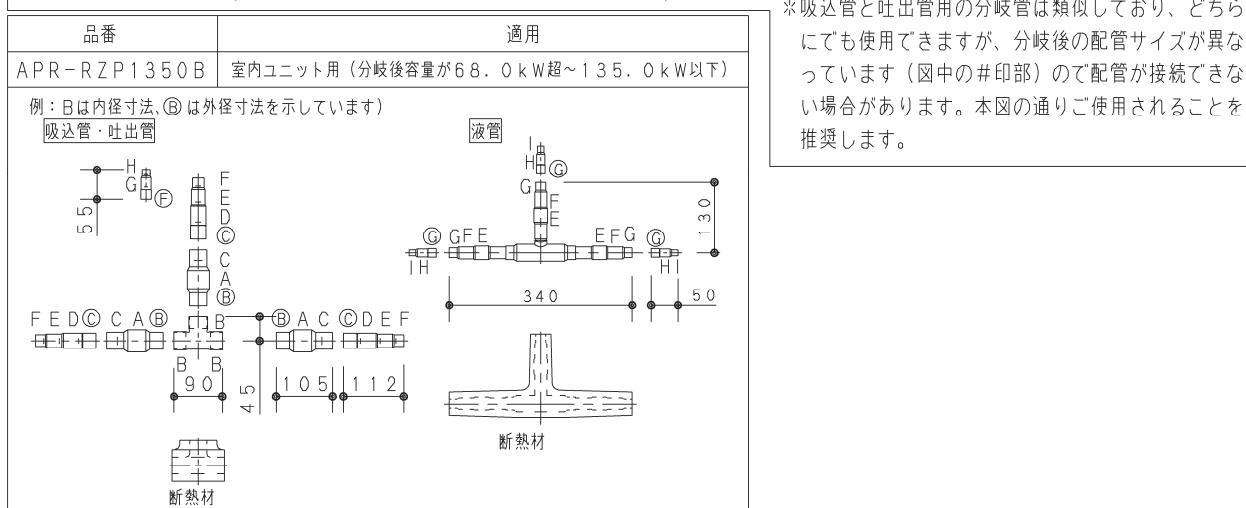
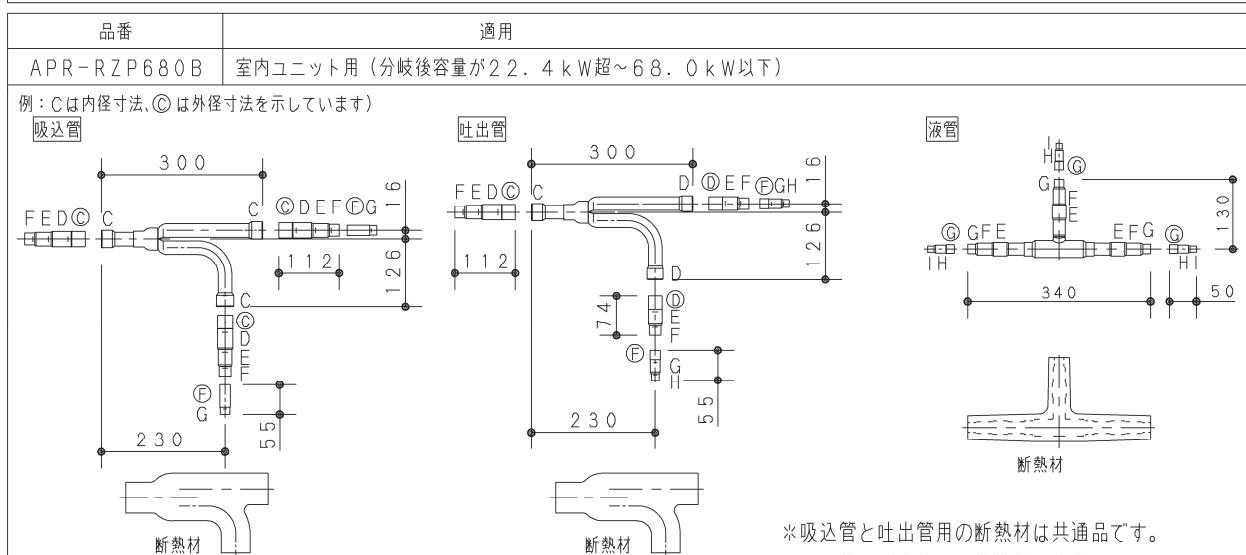
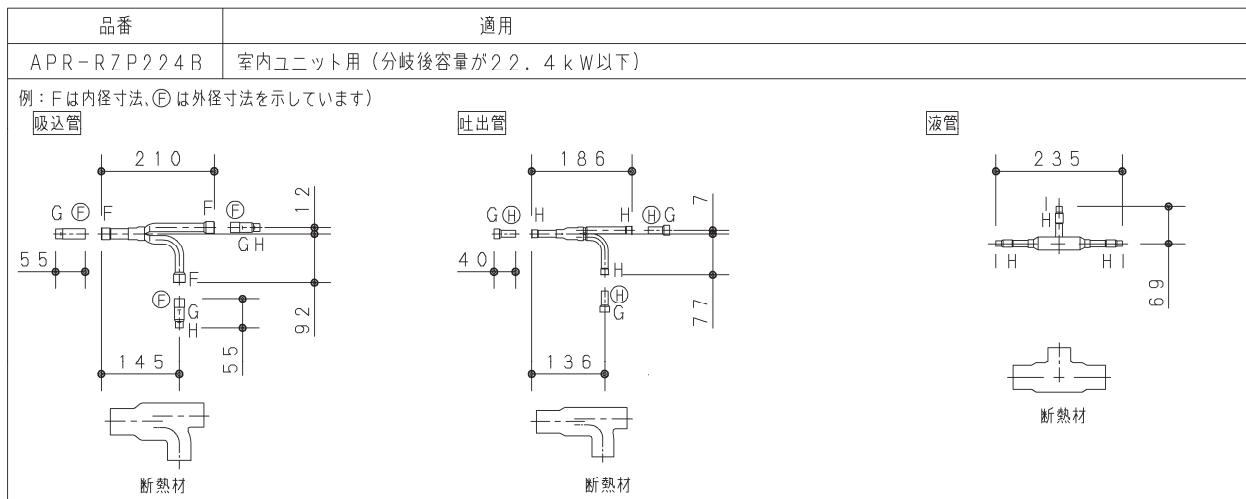
### (1) 分岐配管セット (3WAYマルチ用)

接続容量合計 最大配管長	16kW以下	16.1 ~ 35.5kW	35.6kW以上
	90m以内	APR-RZP224B	APR-RZP680B
90m以上		APR-RZP680B	APR-RZP1350B

● 各部接続寸法

(mm)

位置	A 部	B 部	C 部	D 部	E 部	F 部	G 部	H 部	I 部	J 部
寸 法	Φ38.1	Φ31.75	Φ28.58	Φ25.4	Φ22.22	Φ19.05	Φ15.88	Φ12.7	Φ9.52	-



\*吸込管と吐出管の断熱材は共通品です。

\*吸込管と吐出管用の分岐管は類似しており、どちらにでも使用できますが、分岐後の配管サイズが異なっています（図中の#印部）ので配管が接続できない場合があります。本図の通りご使用されることを推奨します。

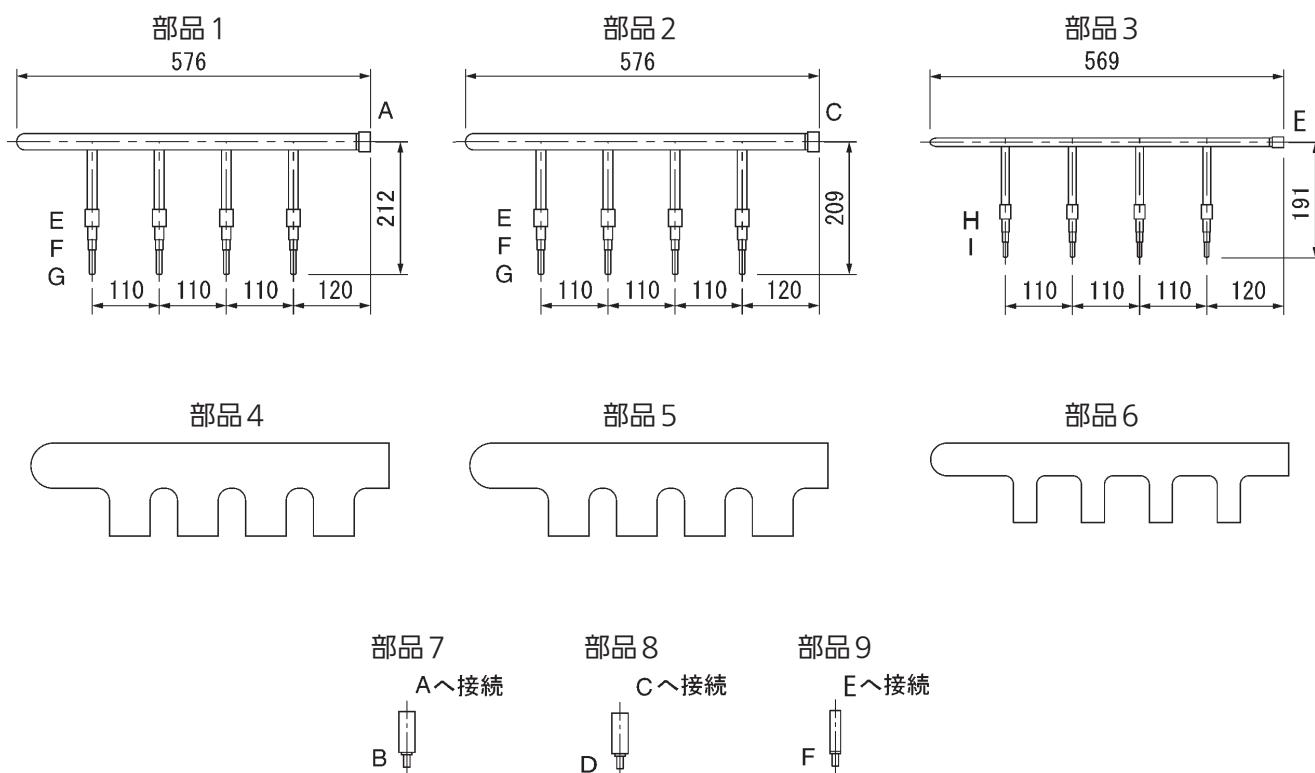
品番 APR-P160B					
● 各部接続寸法（配管の内径を示す） (mm)					
位置	C 部	D 部	E 部	F 部	G 部
寸 法	Φ19.05	Φ15.88	Φ12.7	Φ9.52	Φ6.35

## 2. 冷媒関連部品

## 別売部品編

### (2) ヘッダー配管セット (3WAYマルチ用)

SGP-HCHZ560M



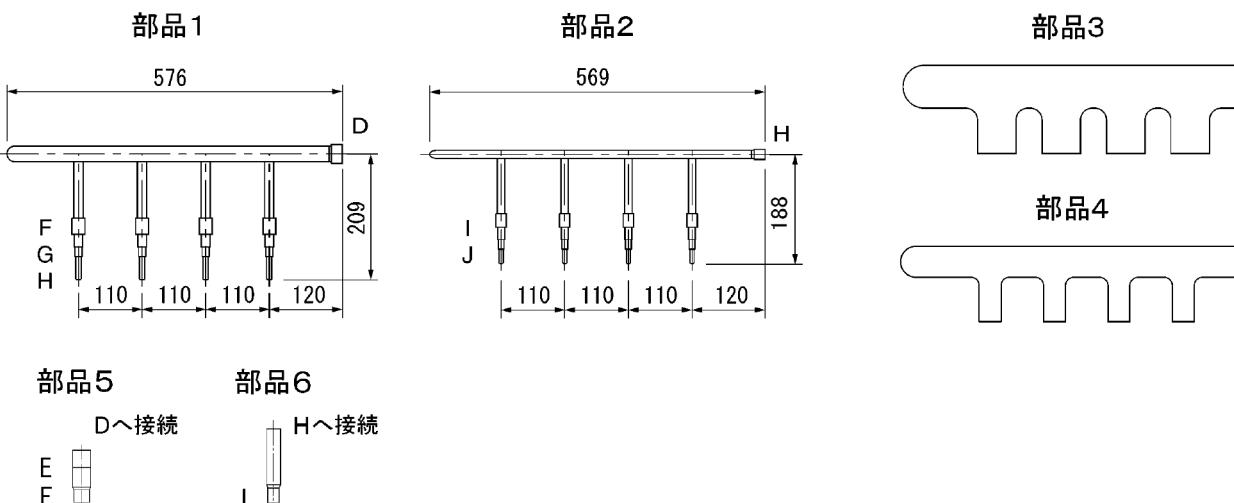
#### ●各部接続寸法(配管の内径を示す) (mm)

位置	A部	B部	C部	D部	E部	F部	G部	H部	I部
寸法	Φ 31.75	Φ 28.58	Φ 25.4	Φ 22.22	Φ 19.05	Φ 15.88	Φ 12.7	Φ 9.52	Φ 6.35

- 室内ユニットのトータル容量より選定された現地配管サイズに合わせたサイズ位置でパイプカッターで切断してください。(先端サイズと同一の場合は切断する必要はありません。)
- 切断はウチダボ部よりできるだけ長く離れた所で行ってください。
- 断熱材付属
- 1個あたり相当長 1.0m

	使用箇所	個数
部品1	吸込側ヘッダー配管	1
部品2	吐出側ヘッダー配管	1
部品3	液側ヘッダー配管	1
部品4	部品1の断熱材	1
部品5	部品2の断熱材	1
部品6	部品3の断熱材	1
部品7	レデューサー (<Φ 28.58)	1
部品8	レデューサー (<Φ 22.22)	1
部品9	レデューサー (<Φ 15.88)	1

## SGP-HCH280M



## ●各部接続寸法(配管の内径を示す) (mm)

位置	D部	E部	F部	G部	H部	I部	J部
寸法	Φ 25.4	Φ 22.22	Φ 19.05	Φ 15.88	Φ 12.7	Φ 9.52	Φ 6.35

- 室内ユニットのトータル容量より選定された現地配管サイズに合わせたサイズ位置でパイプカッターで切断してください。(先端サイズと同一の場合は切断する必要はありません。)
- 切断はウチダボ部よりできるだけ長く離れた所で行ってください。
- 断熱材付属
- 1個あたり相当長0.5m

	使用箇所	個数
部品1	ガス側ヘッダー配管	1
部品2	液側ヘッダー配管	1
部品3	部品1の断熱材	1
部品4	部品2の断熱材	1
部品5	レデューサー	1
部品6	レデューサー	1

## 2. 冷媒関連部品

別売部品編

### (3) 電磁弁キット(3WAYマルチ用)

CZ-P56BU4G

サービススペースについて

- 電磁弁キットは室内ユニットから30m以内のところに取り付けてください。

ただし、電磁弁キットに付属している配線は5mです。配線長さが5mを超えて使用される場合はターミナルボックス（現地調達）等を使用し、延長してください。

若干の冷媒音が発生しますので、病院、図書館、ホテルの客室など静寂な場所へ取り付けないでください。

電磁弁キットは部屋から離れた廊下等の天井裏に取り付けてください。

電磁弁キットは、吊り金具の上の穴を利用して、必ず構造体と吊りボルト等で固定してください。天井面に直接置かないでください。

また、取り付けは必ず本体の上面を上側にして取り付けてください。

取り付けるときには、前面側を200mm、上面側を200mm以上あけてください。

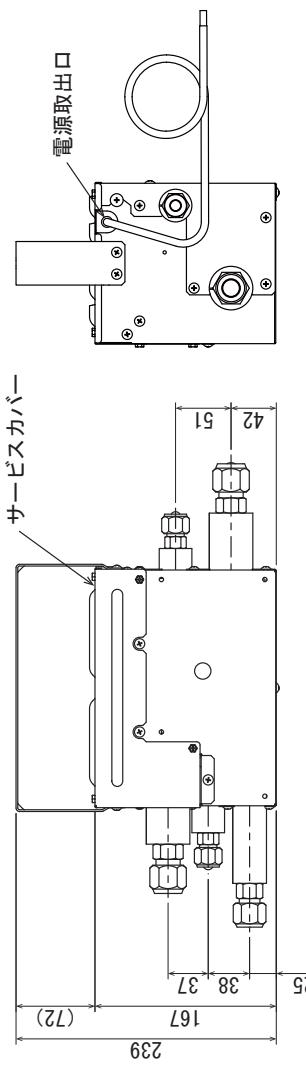
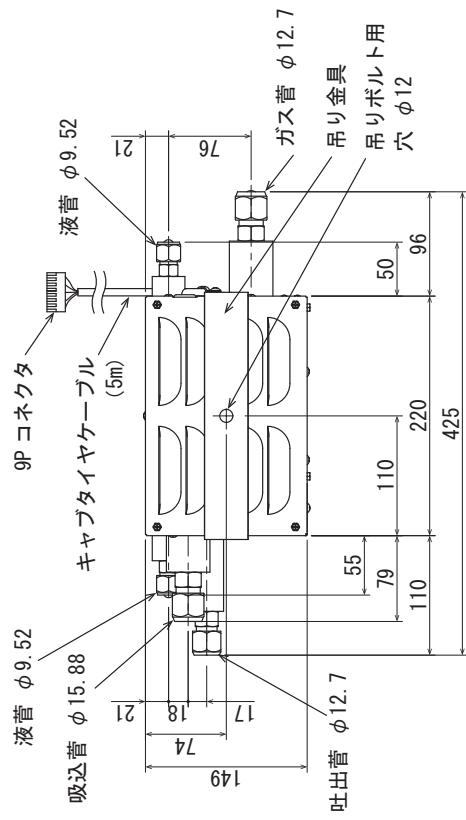
板金には絶対に穴あけや溶接はしないでください。

ドレンの邪魔にならないように配置してください。

空気穴はふさがないようにしてください。

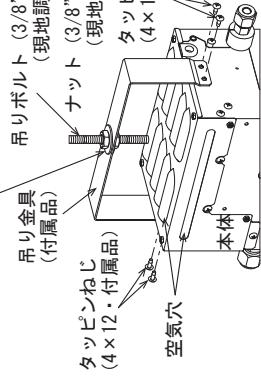
様仕

	CZ-P56BU4G
対応範囲	56形（含む）以下
電源	単相 200V 50/60Hz (室内ユニットから供給)
消費電力	20W
質量	4.6kg
付属品	ワッシャー 断熱材一式

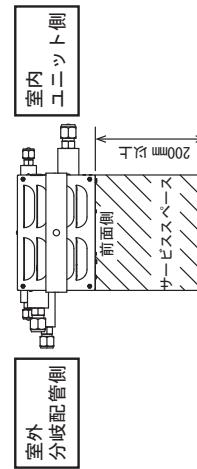
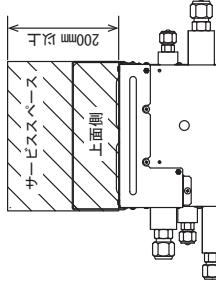


## ■ サービススペースについて

ワッシャー（付属品）



金具の使いかた





## 据付工事説明書

ガスヒートポンプエアコン

### 電磁弁キット

■品番 CZ-P56BU4G

●本機は3WAYマルチの分岐配管—室内ユニット間に取り付ける冷暖切り替え装置です。

室外ユニットや別売基板等に添付されています「据付工事説明書（据付編）」、「据付工事説明書（試運転編）」、「据付工事説明書（電気工事編）」等の説明書を必ず参照してください。

据付工事説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。  
特に「安全上のご注意」（1~2ページ）は、施工前に必ずお読みください。

据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。また、「据付工事説明書」は、「取扱説明書」や「保証書」とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。

## 安全上のご注意

必ずお守りください

人へ危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。  
■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



### 警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



### 注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容（禁止事項）です。



実行しなければならない内容（強制事項）です。

**!** 警 告

- 据付工事は、R410A用に製造された専用のツール・配管を使用し、確実に行ってください。使用しているHFC系冷媒(R410A)は、従来の冷媒に比べ圧力が約1.6倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据え付けに不備があると、破裂、けが、または水漏れや感電・火災の原因になります。
- 据付工事・電気工事は販売店または専門業者に依頼してください。自分で据付工事・電気工事され不備があると、水漏れや感電・火災等の原因になります。
- 据付工事・電気工事は、“据付工事説明書” “据付工事説明書(電気工事編)” に従って確実に行ってください。据え付けに不備があると、冷媒漏れ、水漏れ、感電、火災等の原因になります。
- 電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および“据付工事説明書”、“据付工事説明書(電気工事編)”に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 据え付けは、重量にじゅうぶん耐える強固な場所へ確実に行ってください。強度が不足している場合は、ユニットの落下や転倒などによる事故の原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をしてください。冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 台風などの強風、地震などに備え、所定の据付工事を行ってください。据え付けに不備があると、室内ユニットの落下や転倒などによる事故の原因になります。
- 付属品または別売品は、必ず当社指定の製品を使用してください。また、取り付けは専門業者に依頼してください。自分で取り付けをされ不備があると、感電や火災、水漏れの原因になります。
- 電気配線は、専用の分岐回路を用い、他の電気機器を併用しないでください。併用した場合に、ブレーカー落ちによる二次被害の原因になります。
- 高圧ガス保安協会（KHK）の冷凍空調装置の施設基準(S0010)に基づき、万一室内に冷媒ガスが漏洩しても、限界濃度0.42kg/m<sup>3</sup>を超えないようにしてください。超える場合には、隣室との間に開口部を設けるか、またはガス漏れ検知警報設備と連動する機械換気装置を設けてください。万一、狭い室内に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると、酸欠事故の原因になります。
- 冷媒配管工事終了後はチッソガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 室内ユニットのドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。有毒ガスが室内に流入して中毒などの原因になります。
- 可燃性ガスの漏れの恐れのある場所への設置は行わないでください。万一、ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
- 室外ユニット排気ドレン管と、室内ユニットドレン管は共用しないでください。排気ガスが室内に流入し、中毒及び熱交換器等を腐食させるなどの原因になります。



アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

※アース端子は電装ボックス内部にあります。（接地工事はD種〈旧第三種〉接地工事です。）

※静電気による帯電およびノイズを吸収するため、必ずアース工事を行ってください。

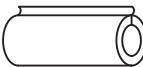
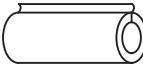
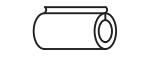
**!** 注 意

- ドレン配管は、“据付工事説明書”に従って確実に排水する様に配管し、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になることがあります。
- 冷媒配管の断熱は、“据付工事説明書”に従って確実に断熱してください。断熱しないと、水漏れや、やけどの原因になることがあります。  
(ガス管の断熱材は耐熱120°C以上のものを使用してください。)
- 冷媒ガスを取り扱う際は、直接冷媒ガスに触れないでください。凍傷の原因になります。
- 漏れて困るものの上に室内ユニットを据え付けないでください。高湿度雰囲気状態内で運転する場合や、ドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落下する場合があります。
- 漏電しゃ断器（高周波対応品）を必ず取り付けてください。  
漏電しゃ断器が取り付けられていないと感電・火災の原因になることがあります。
- 小動物のすみかになるような場所、落ち葉が堆積する場所および雑草が生い茂る場所への設置は行わないでください。  
侵入した小動物が内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になります。

■ 据付工事説明書に記載されていない方法や、各説明書に記載されていない本体及び付属品への追加工、指定の部品を使用しない方法で据え付けされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負いません。また、その据え付けが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

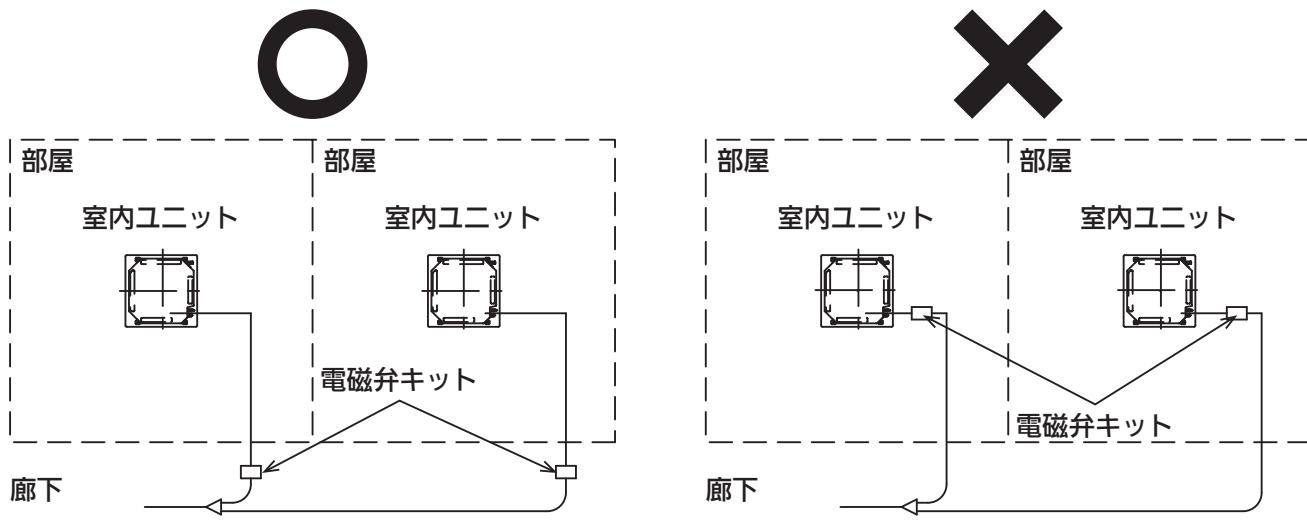
## 1. 付属品

- 付属品をご確認ください。  
下記の部品が梱包されています。

名称	形状	員数	備考
フレア断熱材		1	ガス管用 〔長さ130mm 外形49mm、内径29mm〕
フレア断熱材		1	吸込管用 〔長さ130mm 外形52mm、内径32mm〕
フレア断熱材		1	吐出管用 〔長さ100mm 外形49mm、内径29mm〕
フレア断熱材		2	液管用 〔長さ70mm 外形46mm、内径26mm〕
ワッシャー		2	吊りボルト用
吊り金具		1	本体吊り用
タッピングねじ (4×12)		4	吊り金具固定用

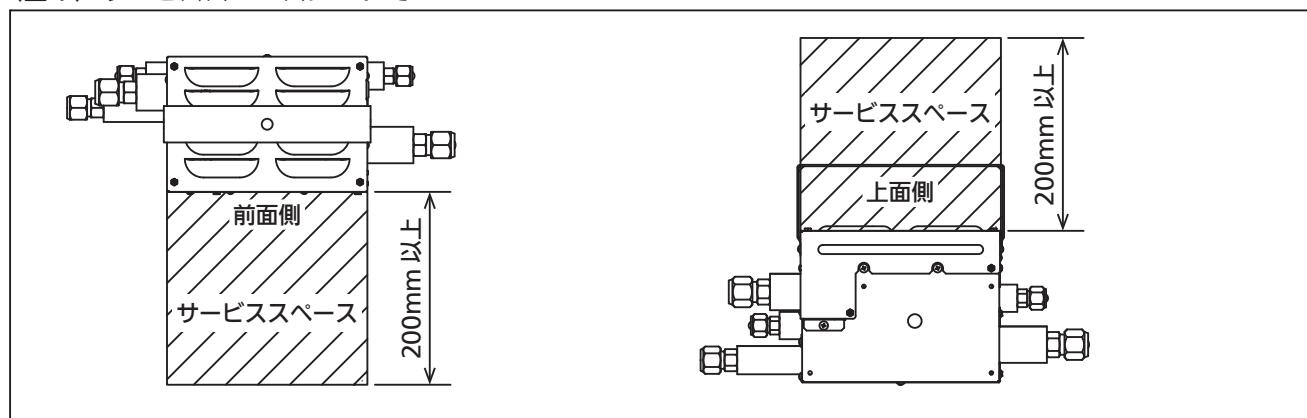
## 2. 据付場所と注意事項

- 電磁弁キットは室内ユニットから 30m以内のところに取り付けてください。  
ただし、電磁弁キットに付属している配線は約 5 mです。付属配線を延長して使用される場合はターミナルボックス（現地調達）等を使用し、延長してください。  
項目 5. 配線、配管、断熱の図 4 を参照してください。
- 病院、図書館、ホテルの客室など静寂な場所では、若干の冷媒音が発生しますので、電磁弁キットは部屋から離れた廊下等の天井裏に取り付けてください。



- 点検・整備のために前面側から作業できる位置に点検口 (450×450) を設けることを推奨します。
- 電磁弁キットは、吊り金具の上の穴を利用して、必ず構造体と吊りボルト等で固定してください。  
天井面に直接置かないでください。また、取り付けは必ず上面を上にして取り付けてください。  
(項目 3. 組み立て寸法と吊り下げ方法の金具の使いかたの図を参照)
- 取り付けるときにサービススペースとして前面側を 200mm、上面側を 200mm 以上あけてください。(図 1)
- 板金には絶対に穴あけや溶接はしないでください。  
ドレンの邪魔にならないように配置してください。
- 空気穴はふさがないようにしてください。(項目 4. 配線、配管、断熱の図を参照)

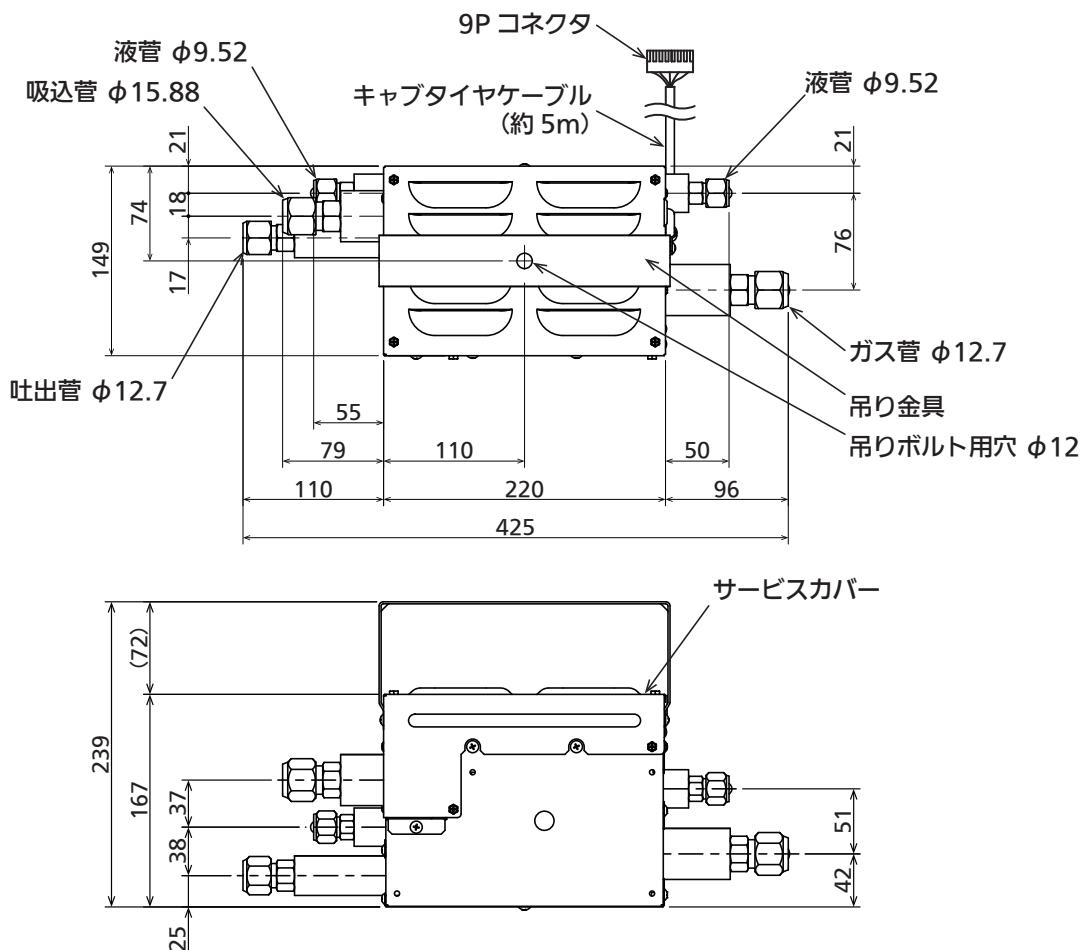
(図1) サービススペースについて



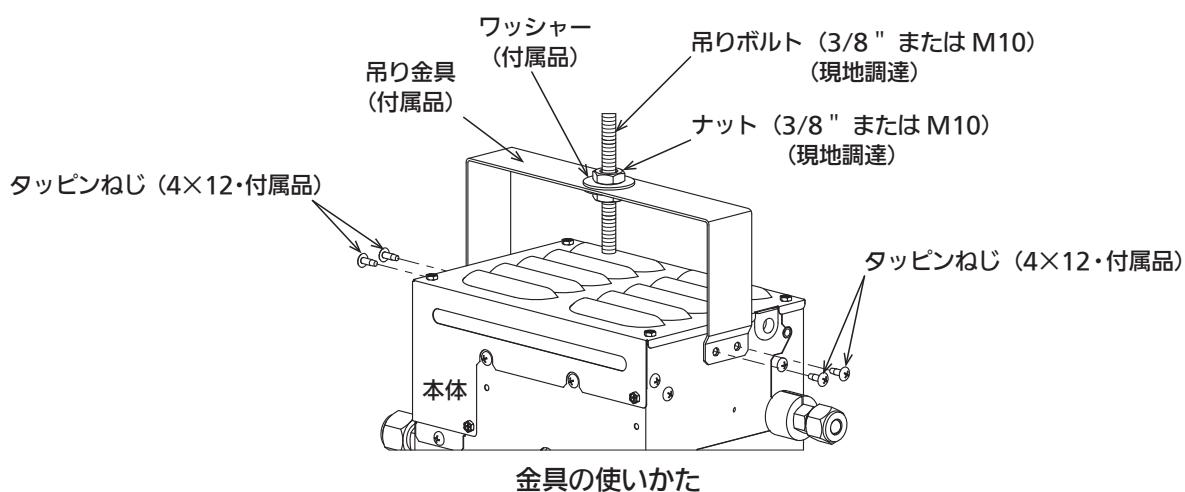
### 3. 組み立て寸法と吊り下げ方法

- 電磁弁キットに対応する室内ユニット形式容量は右表です。

電磁弁キット形式	室内ユニット形式容量
56形	22~56形



(注) この図は吊り金具を取り付けた状態です。

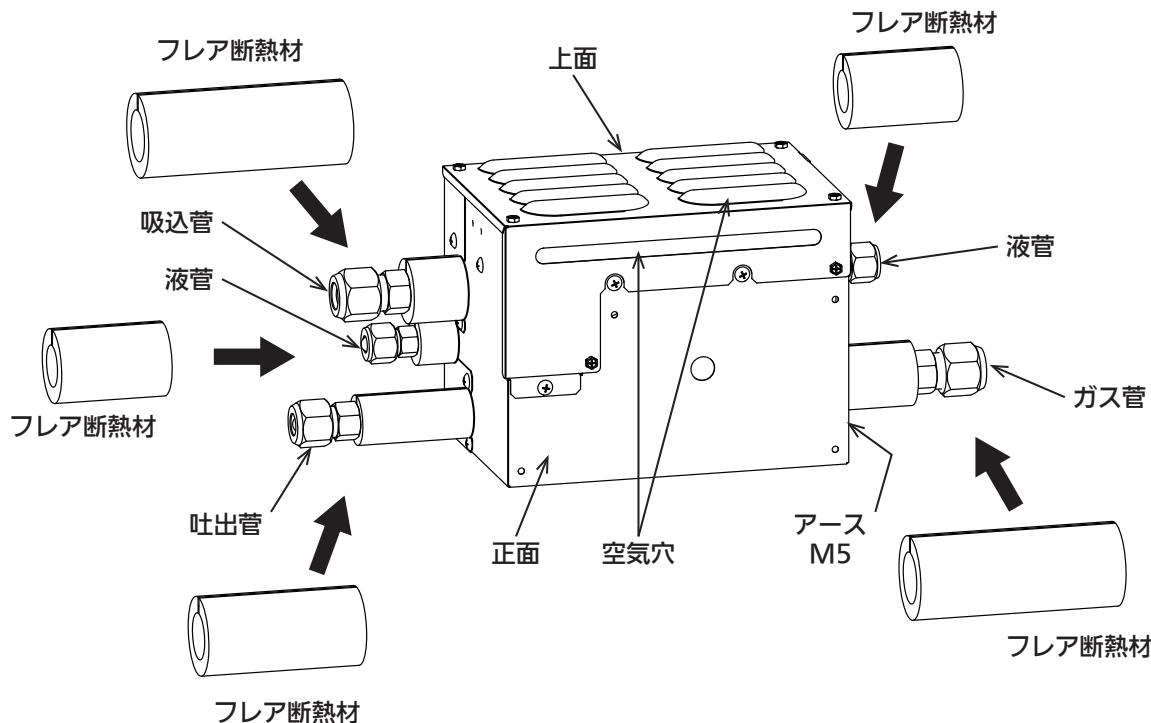


※注意

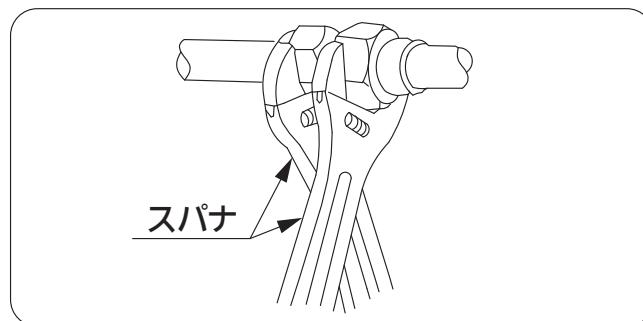
タッピングねじ (4×12) は付属品以外の長いねじは絶対に使用しないでください。  
内部の配管に穴をあけ、冷媒リークの原因になります。

## 4. 配管、配線、断熱

### 1. 冷媒配管のしかた



注 1) 配管接続部のフレアナットをはずすときおよび配管接続後にフレアナットを締め付けるときは、必ずスパナ 2 丁掛けで作業を行ってください。



注 2) フレアナットの締めすぎによるフレア部破壊を防ぐため下表を目安に締め付けてください。

配管サイズ	締付トルク	銅管肉厚
Φ9.52 (3/8")	34~42 N·m (340~420 kgf·cm)	0.8mm
Φ12.7 (1/2")	49~61 N·m (490~610 kgf·cm)	0.8mm
Φ15.88 (5/8")	68~82 N·m (680~820 kgf·cm)	1.0mm

## 2. 配線のしかた

電磁弁キットから出ている9Pコネクタを室内ユニットの電源取入口を通じて別売の電磁弁出力基板の9Pコネクタ（赤）と接続してください。（図2）

キャブタイヤケーブルは、約5mあります。

長さが足りないときは途中で切断して図3のようにターミナルボックス（現地調達）で中継してください。

キャブタイヤケーブルは室内ユニット内の結束バンドで固定してください。

キャブタイヤケーブルはリモコン線、室内外操作線と同一電線管内に通さないでください。

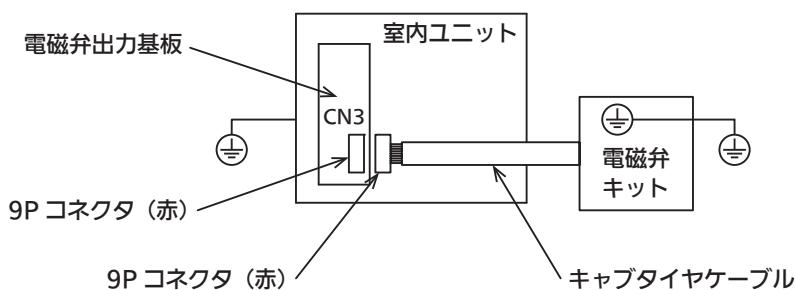
## ● 配線仕様

5芯キャブタイヤケーブル、 $0.75\text{mm}^2$ 以上

## ● アース工事は、必ず行ってください。

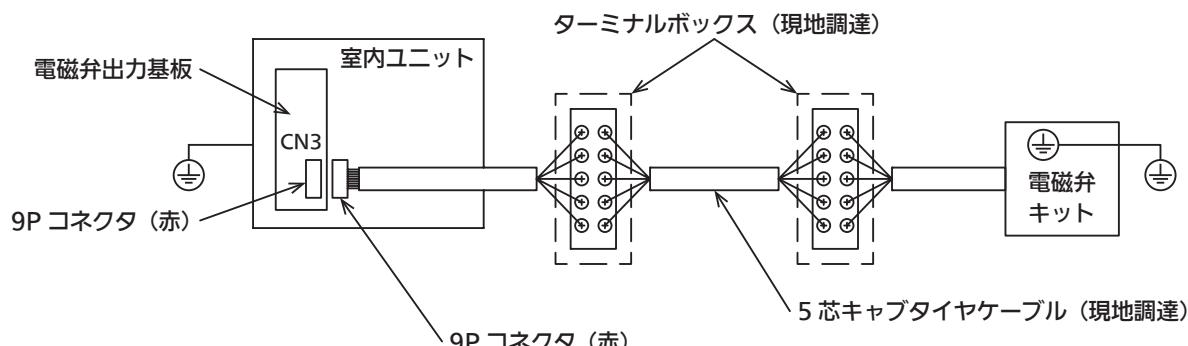
(図2) 接続のしかた

## 通常の場合



(図3) 延長配線のしかた

## 付属配線を延長する場合



配線接続は、絶対に間違えないでください。誤配線すると壊れます。

## 断熱のしかた

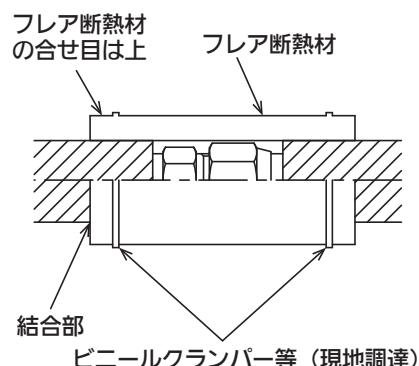
（断熱は必ずリーキ検査後行ってください。）

配管は必ず断熱してください。（吐出管、ガス管は、 $120^\circ\text{C}$ 以上、吸込管、液管は $80^\circ\text{C}$ 以上の耐熱性断熱材で厚さは $10\text{mm}$ 以上を使用してください。）

次に、フレアナット部に付属のフレア断熱材を巻き付け  
結合部に隙間がないように、またフレア断熱材を巻き付けが上側になるよう工事をしてください。

そしてフレア断熱材をビニールクランパー等（現地調達）  
で隙間がないように締め付けてください。

断熱しないと水漏れ（結露）の原因になります。



ガスヒートポンプエアコンは“高圧ガス保安法”、“冷凍保安規則”および高圧ガス保安協会制定の  
“冷凍空調装置の施設基準”を満たすように設置し、必要なものは届け出をしてください。

## 2. 冷媒関連部品

別売部品編

#### (4) 電磁弁キット(3WAYマルチ用)

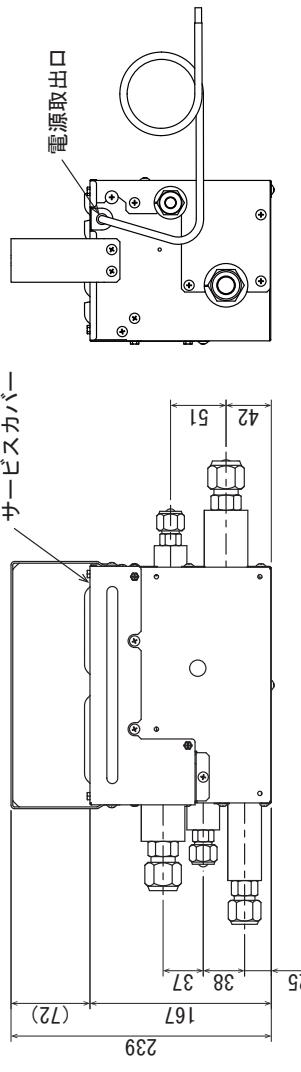
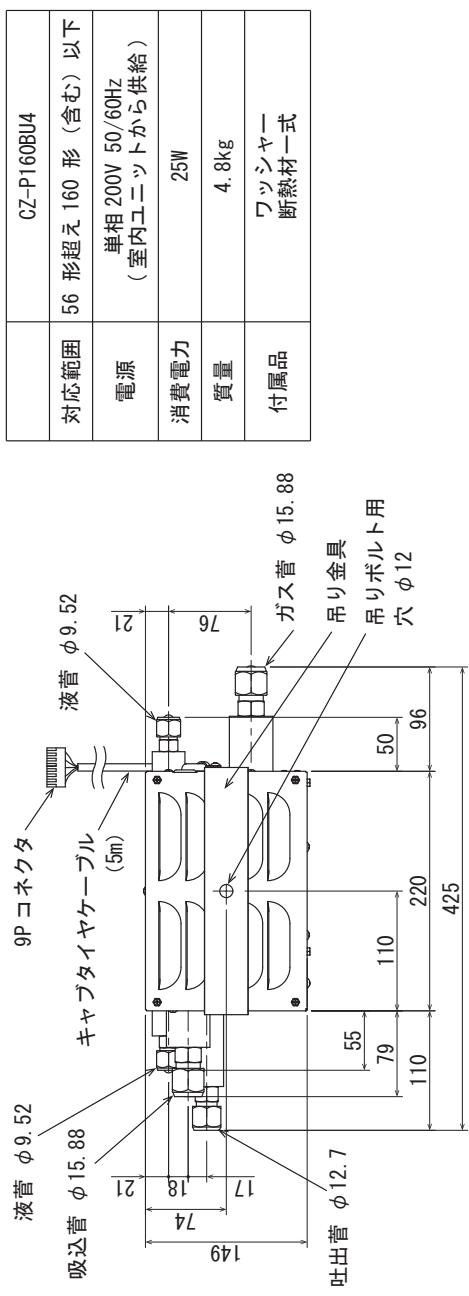
CZ-P160BU4

## ■ サービスベースについて

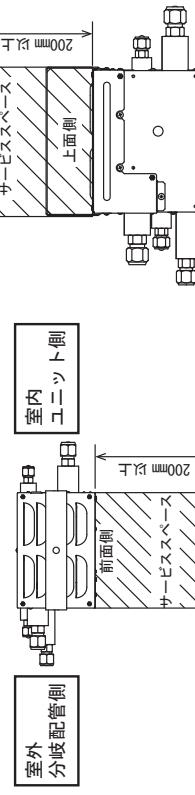
- 電磁弁キットは室内ユニットから30m以内のところに取り付けてください。  
ただし、電磁弁キットに付属している配線は5mです。配線長さが5mを超えて使用される場合はターミナルボックス（現地調達）等を使用し、延長してください。
  - 若干の冷媒音が発生しますので、病院、図書館、ホテルの客室など静寂な場所へ取り付けないでください。
  - 電磁弁キットは部屋から離れた廊下等の天井裏に取り付けてください。
  - 電磁弁キットは、吊り金具の上の穴を利用して、必ず構造体と吊りボルト等で固定してください。天井面に直接置かないでください。  
また、取り付けは必ず本体の上面を上側にして取り付けてください。
  - 取り付けるときには、前面側を200mm、上面側を200mm以上あけてください。
  - 板金には絶対に穴あけや溶接はしないでください。  
ドレンの邪魔にならないように配置してください。
  - 空気穴はふさがないようにしてください。

様住

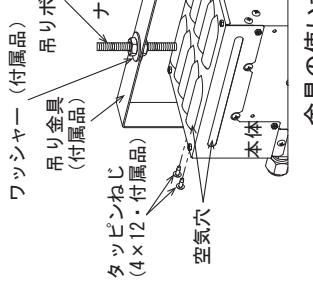
外形寸法図



■ #=ビズズペ=3イニコハ



■ 雷磁并用による取り付け例



金具の使いかた

**据付工事説明書 据付工事担当のかたへ**

CZ-P\*\*\*BU4

電磁弁キット

- 本機は 3WAY マルチの分岐配管一室内ユニット間に取り付ける冷暖切り替え装置です。

室外ユニットや別売基板等に添付されています「据付工事担当のかたへ」「電気工事担当のかたへ」等の説明書を必ず参照してください。

**安全上のご注意**

- 据付工事、電気工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、「 警告」、「 注意」に区分していますが、いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味は次のようになっています。

 **警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

 **注意** 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

\* 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに“取扱説明書”にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。また“据付工事担当のかたへ”、“電気工事担当のかたへ”は、“取扱説明書”とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。

**! 警告**

- 据付、電気工事は、販売店または専門業者に依頼してください。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災等の原因になります。
- 据付工事は、“据付工事担当のかたへ” “電気工事担当のかたへ” に従って確実に行ってください。  
据え付けに不備があると、冷媒漏れ、水漏れ、感電、火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および“据付工事担当のかたへ” “電気工事担当のかたへ” に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。  
電源回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。  
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 据え付けは、重量に十分耐えるところに確実に行ってください。  
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行ってください。  
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気をしてください。冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。  
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 気密試験に使用するガスはチッソを必ず使用し、酸素等は絶対に使用しないでください。  
破裂、火災、けが等の原因になります。

**! 注意**

- 銘板に記載されている指定以外の冷媒を絶対に使用しないでください。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わないでください。  
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- 小動物のすみかになるような場所、落ち葉が堆積する場所および雑草が生い茂る場所への設置は行わないでください。  
侵入した小動物が内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
- 冷媒配管の断熱は、この“据付工事担当のかたへ”に従って確実に断熱してください。  
断熱しないと、水漏れや、やけどの原因になることがあります。

## 1. 付属品

- 付属品をご確認ください。  
下記の部品が梱包されています。

56形

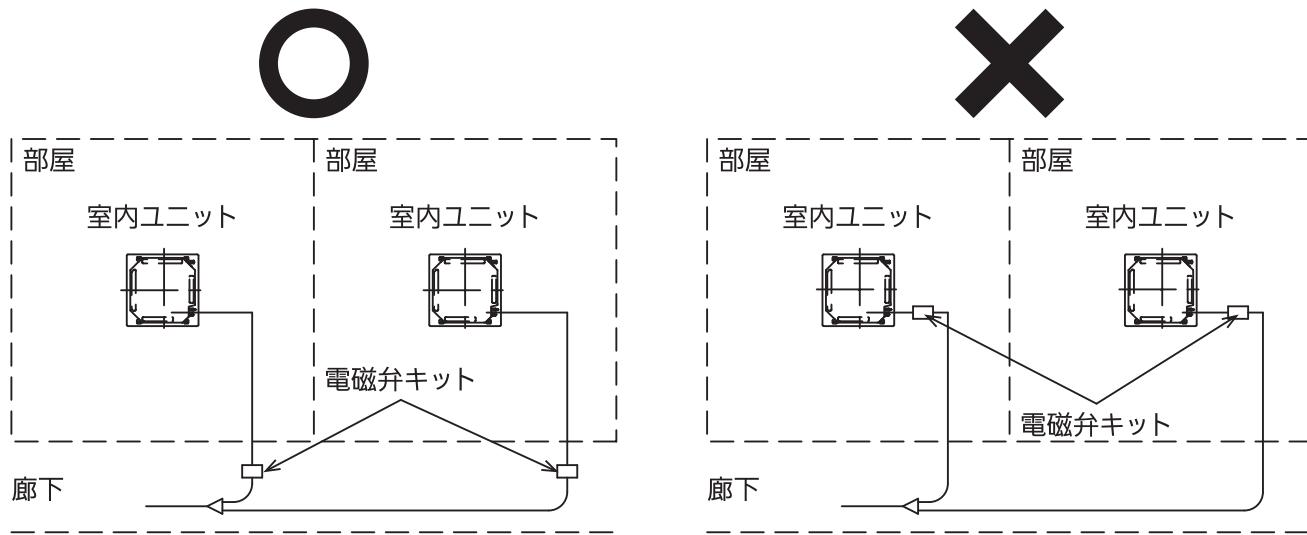
名称	形状	員数	備考
フレア断熱材		1	ガス管用 〔長さ130mm 外形49mm、内径29mm〕
フレア断熱材		1	吸込管用 〔長さ130mm 外形52mm、内径32mm〕
フレア断熱材		1	吐出管用 〔長さ100mm 外形49mm、内径29mm〕
フレア断熱材		2	液管用 〔長さ70mm 外形46mm、内径26mm〕
ワッシャー		2	吊りボルト用
吊り金具		1	本体吊り用
タッピングねじ(4×12)		4	吊り金具固定用

160形

名称	形状	員数	備考
フレア断熱材		2	吸込管、ガス管用 〔長さ130mm 外形52mm、内径32mm〕
フレア断熱材		1	吐出管用 〔長さ100mm 外形49mm、内径29mm〕
フレア断熱材		2	液管用 〔長さ70mm 外形46mm、内径26mm〕
ワッシャー		2	吊りボルト用
吊り金具		1	本体吊り用
タッピングねじ(4×12)		4	吊り金具固定用

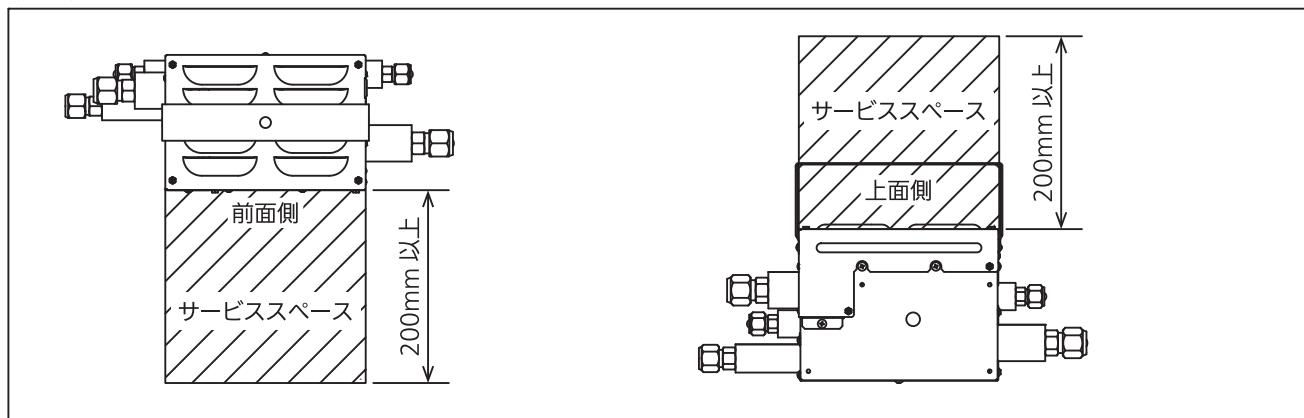
## 2. 据付場所と注意事項

- 電磁弁キットは室内ユニットから30m以内のところに取り付けてください。  
ただし、電磁弁キットに付属している配線は約5mです。付属配線を延長して使用される場合はターミナルボックス（現地調達）等を使用し、延長してください。  
項目5. 配線、配管、断熱の図4を参照してください。
- 病院、図書館、ホテルの客室など静寂な場所では、若干の冷媒音が発生しますので、電磁弁キットは部屋から離れた廊下等の天井裏に取り付けてください。



- 点検・整備のために前面側から作業できる位置に点検口（450×450）を設けることを推奨します。
- 電磁弁キットは、吊り金具の上の穴を利用して、必ず構造体と吊りボルト等で固定してください。  
天井面に直接置かないでください。また、取り付けは必ず上面を上にして取り付けてください。  
(項目4. 組み立て寸法と吊り下げ方法の金具の使いかたの図を参照)
- 取り付けるときにサービススペースとして前面側を200mm、上面側を200mm以上あけてください。(図1)
- 板金には絶対に穴あけや溶接はしないでください。  
ドレンの邪魔にならないように配置してください。
- 空気穴はふさがないようにしてください。(項目5. 配線、配管、断熱の図を参照)

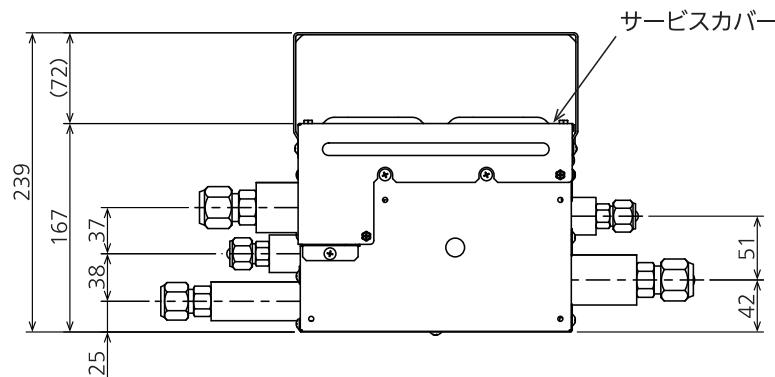
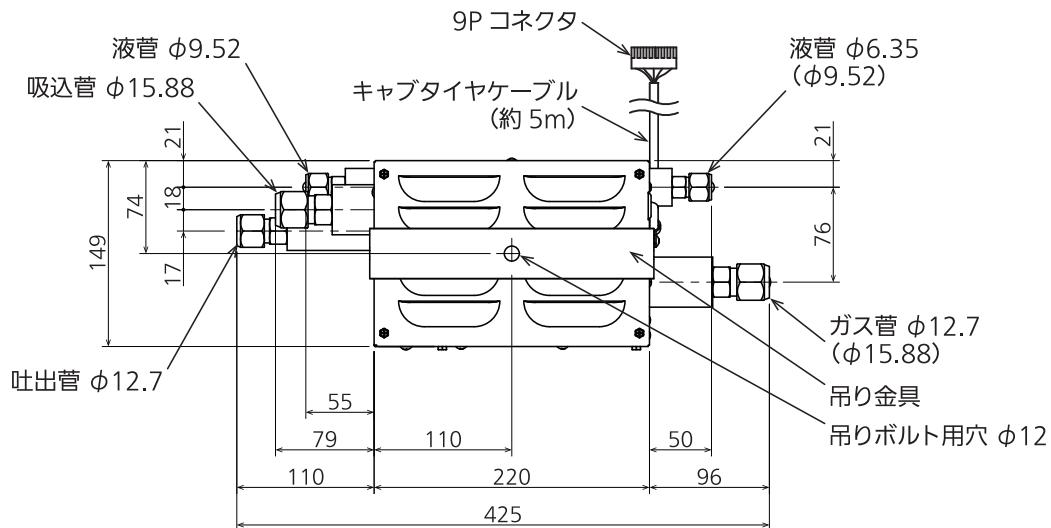
(図1) サービススペースについて



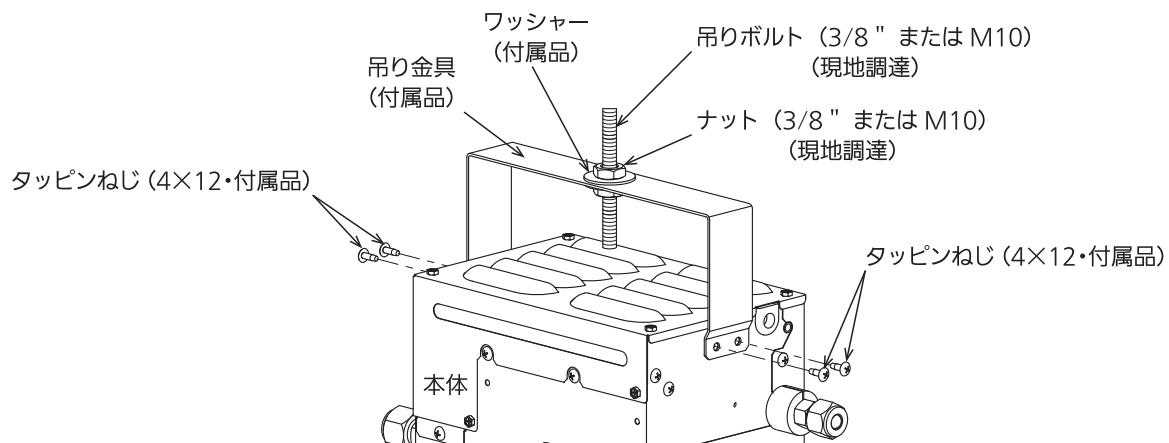
### 3. 組み立て寸法と吊り下げ方法

- 電磁弁キットは、56形と160形の2種類あります。  
対応する室内ユニット形式容量は右表のとおりです。

電磁弁キット形式	室内ユニット形式容量
56形	22~56形
160形	71~160形



(注) この図は吊り金具を取り付けた状態です。() 寸法は、160形の値です。



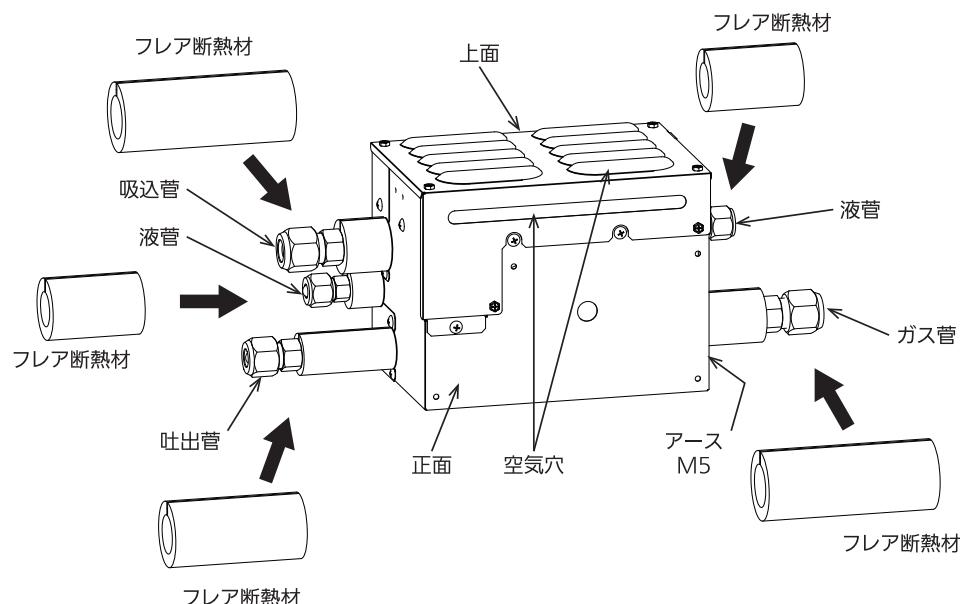
※注意

タッピングねじ（4×12・付属品）は付属品以外の長いねじは絶対に使用しないでください。  
内部の配管に穴をあけ、冷媒リークの原因になります。

金具の使いかた

## 4. 配管、配線、断熱

## 1. 冷媒配管のしかた



注 1) 配管接続部のフレアナットをはずすときおよび配管接続後にフレアナットを締め付けるときは、必ずスパナ 2 丁掛けで作業を行ってください。

注 2) フレアナットの締めすぎによるフレア部破壊を防ぐため下表を目安に締め付けてください。

パイプ外径(mm)	締め付けトルク	
	(N・m)	(kgf・cm)
Φ6.35 (1/4")	14~18	約140~180
Φ9.52 (3/8")	34~42	約340~420
Φ12.7 (1/2")	49~61	約490~610
Φ15.88 (5/8")	68~82	約680~820

## 2. 配線のしかた

電磁弁キットから出ている 9P コネクタを室内ユニットの電源取入口を通じて別売の電磁弁出力基板の 9P コネクタ（赤）と接続してください。（図 3）

キャブタイヤケーブルは、約 5m あります。

長さが足りないときは途中で切断して図 4 のようにターミナルボックス（現地調達）で中継してください。

キャブタイヤケーブルは室内ユニット内の結束バンドで固定してください。

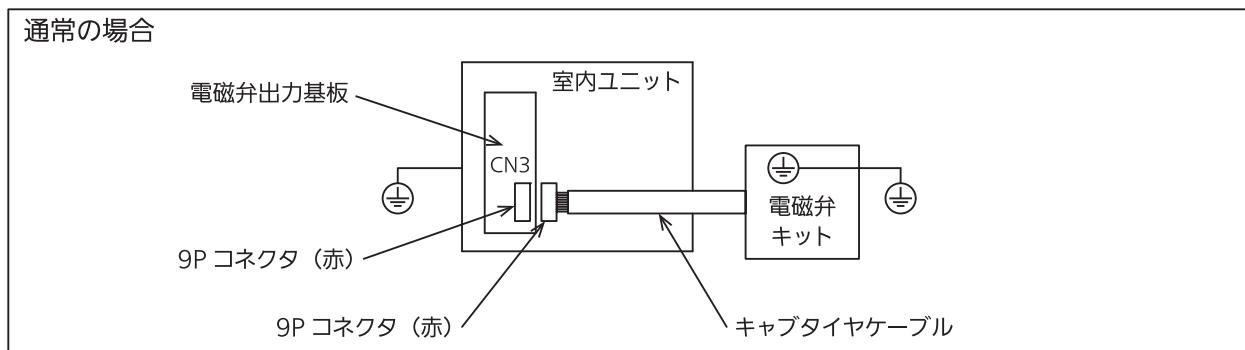
キャブタイヤケーブルはリモコン線、室内外操作線と同一電線管内に通さないでください。

## ● 配線仕様

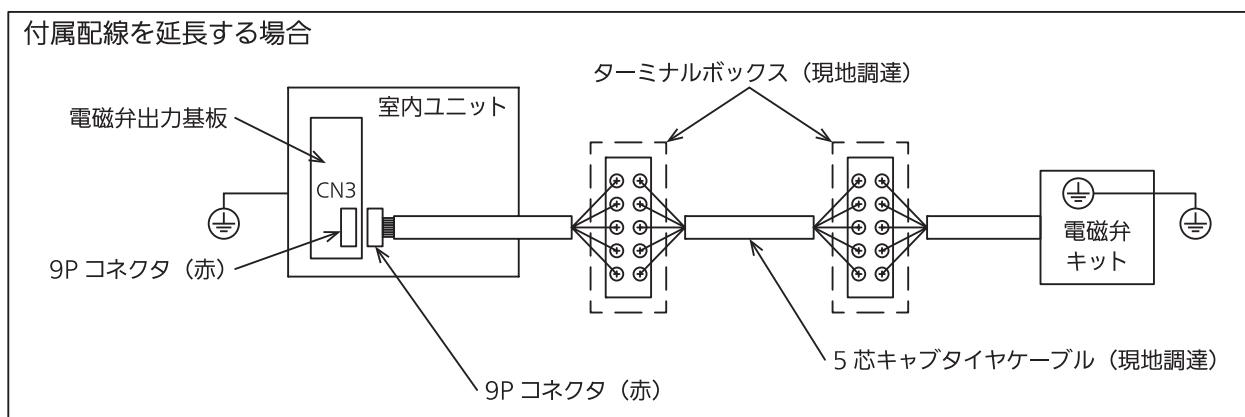
5 芯キャブタイヤケーブル、 $0.75\text{mm}^2$  以上

## ● アース工事は、必ず行ってください。

(図 3) 接続のしかた



(図 4) 延長配線のしかた



配線接続は、絶対に間違えないでください。誤配線すると壊れます。

## 断熱のしかた

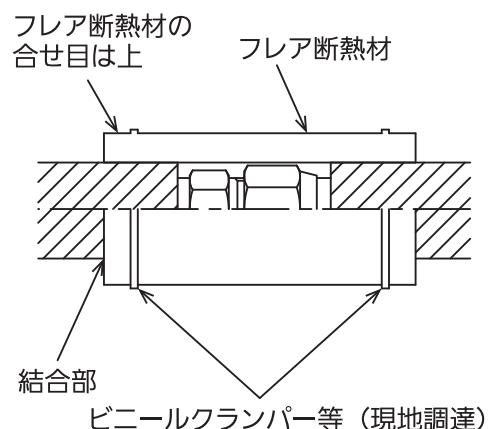
(断熱は必ずリーク検査後行ってください。)

配管は必ず断熱してください。(吐出管、ガス管は、120°C以上、吸込管、液管は 80°C以上の耐熱性断熱材で厚さは 10mm 以上を使用してください。)

次に、フレアナット部に付属のフレア断熱材を巻き付け  
結合部に隙間がないように、またフレア断熱材を巻き付けが上側になるよう工事をしてください。

そしてフレア断熱材をビニールクランパー等（現地調達）  
で隙間がないように締め付けてください。

断熱しないと水漏れ（結露）の原因になります。



## (5) 外付電動弁キット

ATK-SVRK160B

# Panasonic®

**据付工事説明書**

● 室内ユニット対応（冷媒R410A、R407C、R22に対応可能です。）

本文中に示した注意事項は、「△警告」・「△注意」に区分していますが、いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味は次のようになっています。



**警告** 取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合



**注意** 取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合

**ご確認事項**

内容を確認してください。下表に示す部品が同梱されています。

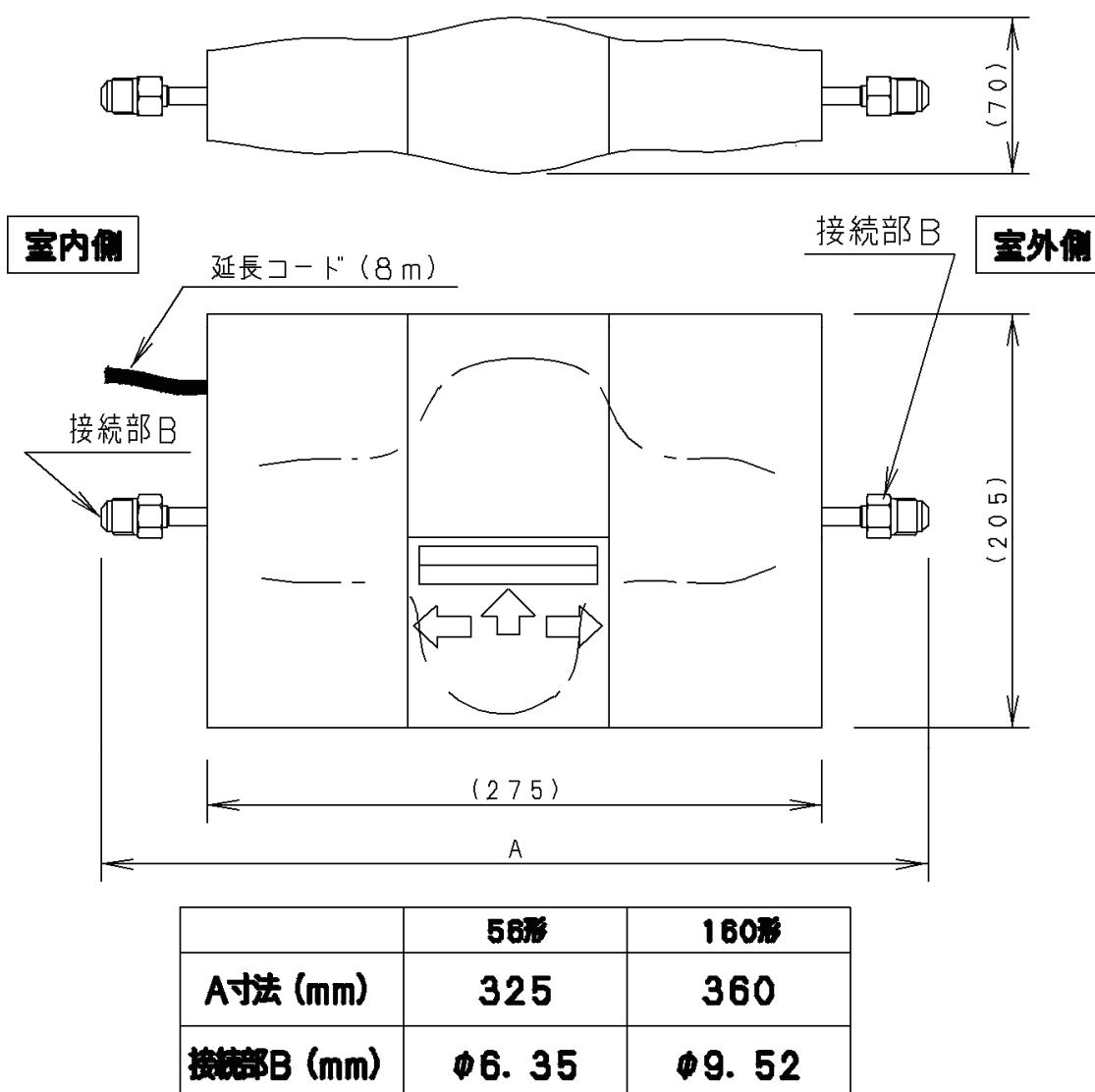
	名 称	形 状	個 数
1	外付電動弁 (延長コード8m付属)		1
2	配管断熱材		2
3	クランパー (大:350mm、小:200mm)		大:2 小:4
4	コネクタ変換ケーブル		1
5	取付説明書		1
6	断熱テープ		白色 (耐熱用) 2

# 取付手順

## 1. 取付位置の決定

- 本体は液管に取り付けます。図1の外形寸法図を参照し、取付位置を決定してください。  
外付電動弁からは冷媒音が発生することがあります。室内ユニットからの距離は、**5m以上8m以内**を目安としてください。（静音を要求される場所からは遠ざけて設置してください。）この距離がとれない場合には、天井裏等しや音の可能な場所への設置をお願いします。
- また、機能部品ですので、点検や交換が必要になる場合があります。この点も考慮して取付位置を決定してください。（点検口の付近等）
- 本製品は屋内専用です。屋外には設置しないでください。

**図1. 外形寸法図**



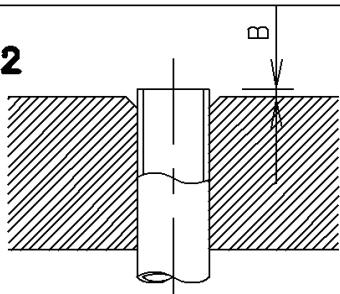
## 2. 液管の切断およびフレア加工

取付位置決定後、パイプカッターにて液管を切断し、接続部をフレア加工してください。  
(フレア加工は下記内容に注意して行ってください。)

**(注)** ●配管切断後は、必ずバリ取りを行ない、正しい端面に仕上げてください。

- 加工時に、配管をつぶさないよう注意してください。
  - 配管の内部に、ゴミや水分等の異物が入らないよう注意してください。
  - フレアナットは本体付属のものを使用してください。
  - R410A用のフレア加工寸法は、従来のR407C、R22用とは異なります。
- R410A用に新規に製作されたフレアツールをおすすめしますが、従来のツールでも下表にしたがって銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

図2



リジッド(クラッチ式)の場合

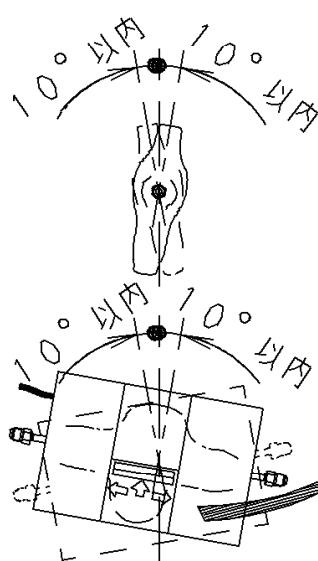
R410A	R407C, R22
R410A専用 ツール使用時	従来ツール使用時
B=0~0.5	1.0~1.5
	0~0.5

フレア加工の銅管出し代：B (mm)

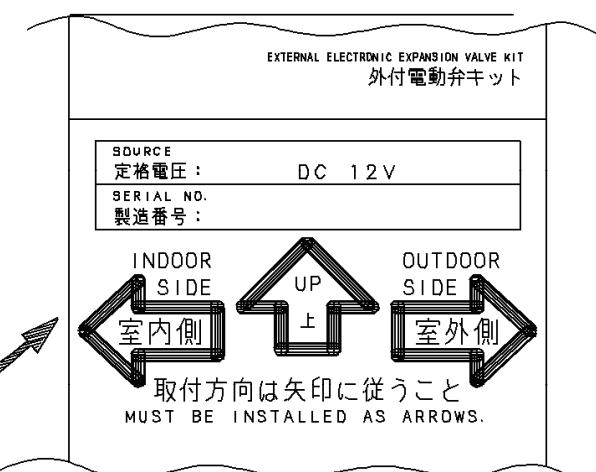
## 3. 外付電動弁の配管への接続

配管への接続時、本体の向きに注意してください。ラベル内の マークが必ず上を向く様に設置してください。取付角度は鉛直線に対して±10度以内としてください。また、フレア部の接続についても、ラベル内の矢印表示に従い、室内側・室外側の方向を確認してから接続してください。(配線引出し側が室内側となります。) (図3参照)

図3



本体貼付ラベル



## ●フレアナットの締め付けについて

### △注意

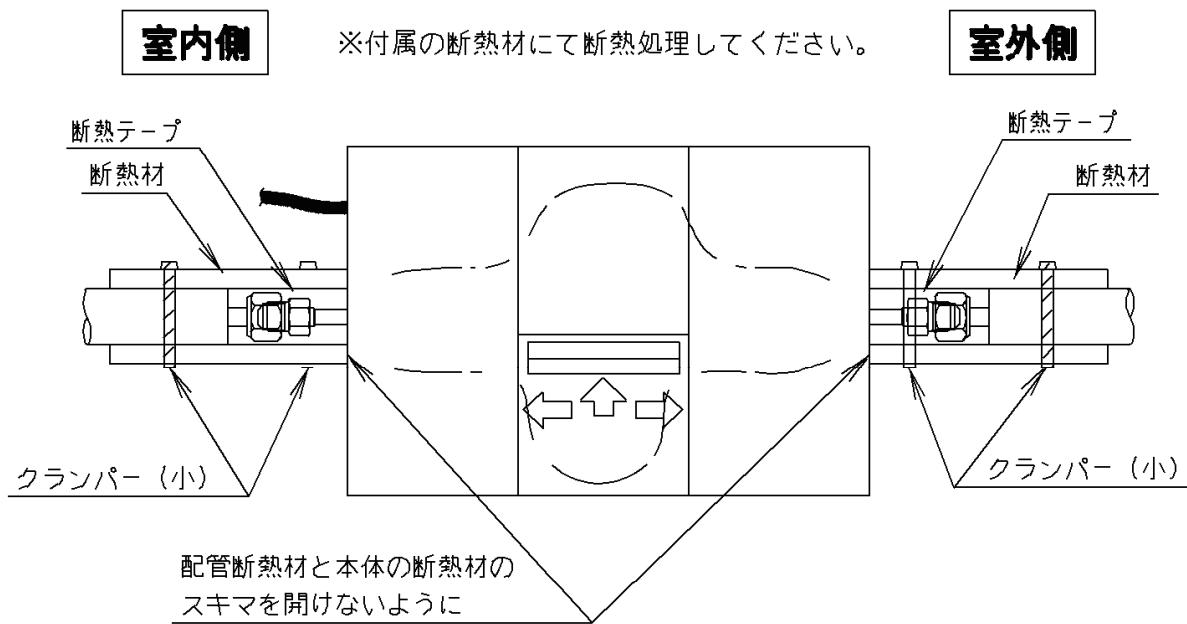
配管接続部のフレアナットをはずす時および配管接続後にフレアナットを締め付ける時は、必ずダブルスパナで行い、締め付けは適正トルクで行ってください。フレア部等のゆるみ・破損が発生した場合に、冷媒漏れによる酸欠事故の原因になることがあります。

パイプ径	締め付けトルク
Φ6.35 (1/4")	14~18N·m (140~180kgf·cm)
Φ9.52 (3/8")	34~42N·m (340~420kgf·cm)

## 4. 配管の断熱

漏れ検査が終了したら、図4のように付属の断熱材で配管接続部の断熱処理を施してください。

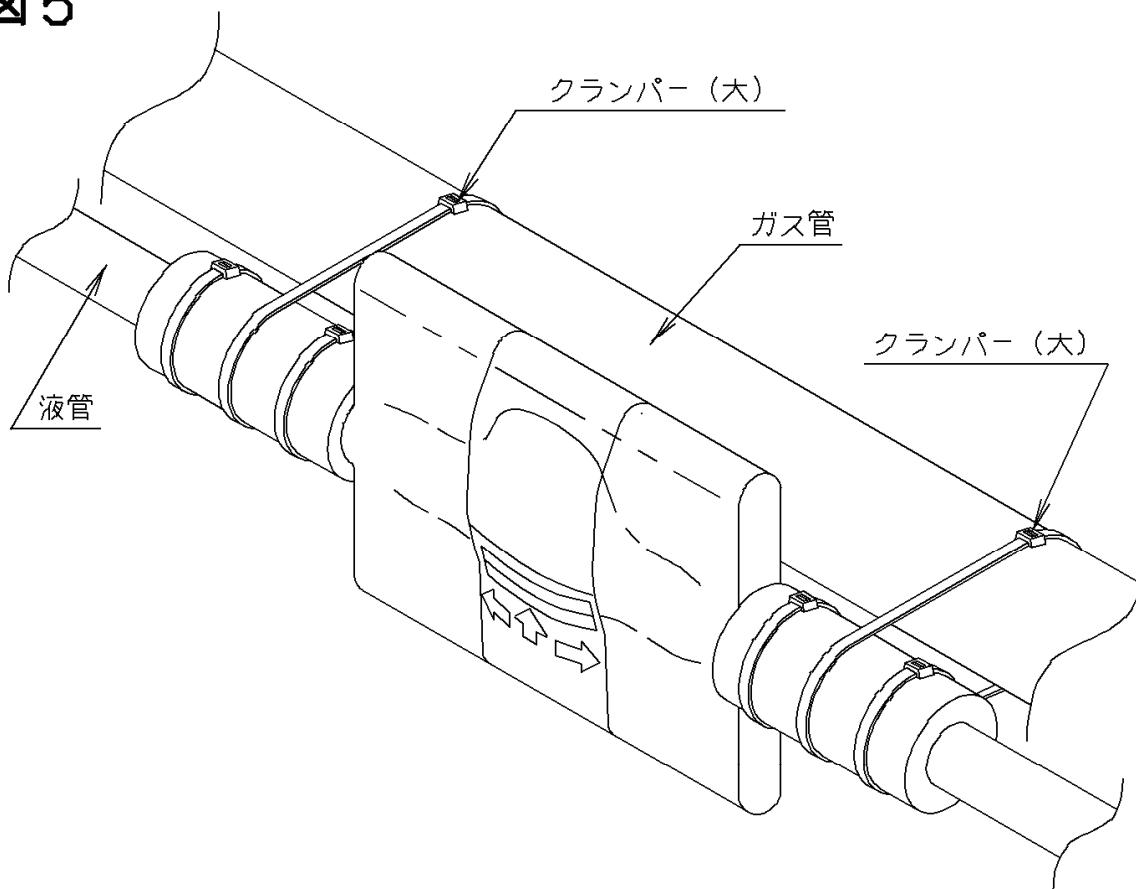
図4



## 5. 配管接続後の固定

外付電動弁は、配管への接続終了後、付属のクランパーを使用してガス管へ抱かせるように固定してください。（図5参照）

図5



※配管等を変形させることのないよう、クランパーは  
あまり強く締めすぎないようにしてください。

●配線の前に、お読みください。

### △注意

配線を引っ張らないようにしてください。基板のコネクタ部を破損する原因になります。  
同様に外付電動弁の本体側も引っ張らないでください。

## 配線手順（ガスヒートポンプの場合）

### 通電前の室内ユニットの場合

室内ユニット内蔵の電動弁は、全開で出荷されていますので、配線処理（手順1～3）のみとなります。ただし、室内ユニットが外付電動弁タイプの場合は電動弁が内蔵されていないため、下記a、bのみとなります。

- a. 電動弁接続コネクタが電装ボックスの外に出ている機種は、電装ボックスを開ける必要はありません。中継コネクタ（“外付電動弁中継用”ラベルあり）に外付電動弁のコネクタを接続してください。
- b. 電動弁接続コネクタの無い機種は、配線処理のみとなります。  
電装ボックスを開けたあと、手順2、3を行なってください。

### 手順

- 1 室内ユニットの電装ボックスを開け、室内電動弁のコネクタを外してください。
- 2 外付電動弁のコネクタを室内コントロール基板（PMVまたはT6）に接続してください。
- 3 配線処理をして、電装ボックスを閉じてください。

### 通電後の室内ユニットの場合

室内ユニットに通電すると、内蔵電動弁が全閉になります。そのため、配線処理をする前に内蔵電動弁を全開にする作業が必要となります。（手順1～4）

ただし、室内ユニットが外付電動弁タイプの場合は電動弁が内蔵されていないため、下記a、bのみとなります。

- a. 電動弁接続コネクタが電装ボックスの外に出ている機種は、電装ボックスを開ける必要はありません。中継コネクタ（“外付電動弁中継用”ラベルあり）に外付電動弁のコネクタを接続してください。
- b. 電動弁接続コネクタの無い機種は、配線処理のみとなります。  
電装ボックスを開けたあと、手順3、4を行なってください。

### 手順

- 1 室外コントロール基板にて室内ユニットを一括停止させ、弁開操作により室内ユニットの電動弁を全開にします。  
《注》室外コントロール基板の操作方法は、機種によって異なりますので、各機種のサービスマニュアルを参照してください。
- 2 電動弁を全開にしたうえで、電装ボックスを開き、電磁弁のコネクタを外してください。
- 3 外付電動弁のコネクタを室内コントロール基板（PMVまたはT6）に接続してください。
- 4 配線処理をして、電装ボックスを閉じてください。

## 配線手順（付属ケーブルの使用法）

本製品は、接続する室内ユニットの種類により、付属のコネクタ変換ケーブルを使用することになります。対象ユニット・使用法については以下をご参照ください。

- コネクタ変換ケーブルを使用する室内ユニット  
室内コントロール基板が5Pプラグの場合は、  
付属のコネクタ変換ケーブルを使用してください。

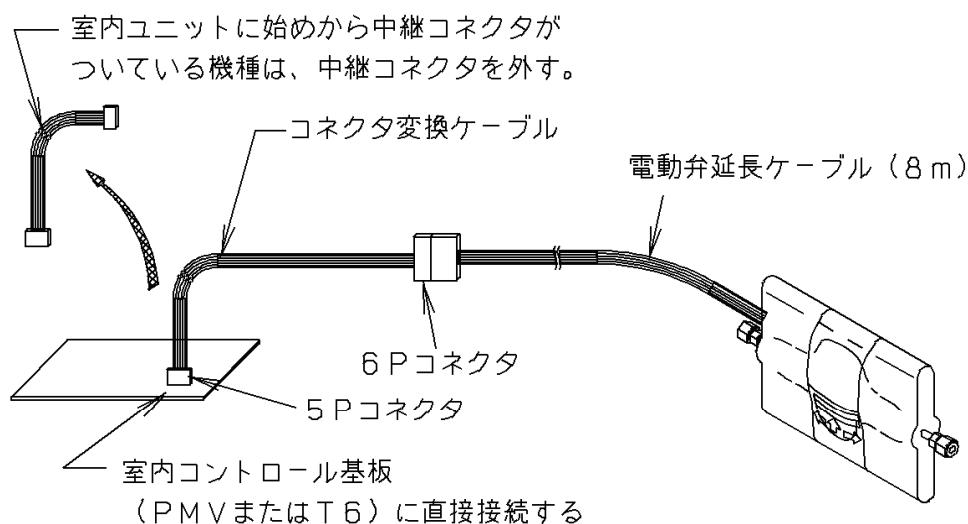
### コネクタ変換ケーブルの使用法

コネクタ変換ケーブルは、電動弁本体から出ている延長ケーブル（8m）に  
繋ぎ足して使用します。（図7参照）

コネクタ変換ケーブル接続後、前述の配線手順に従い室内コントロール基板に  
接続してください。

※機種により室内コントロール基板に中継コネクタ（“外付電動弁中継用”  
ラベルあり）が取り付けられている場合がありますが、本付属ケーブルを  
使用する際には中継コネクタは取り外し、付属ケーブルを直接室内コント  
ロール基板に接続してください。

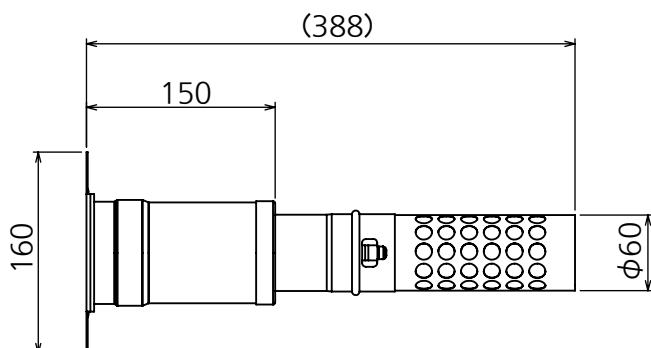
図7



85464369049004  
PA0207-41016

## (1) 排気延長キット (SGP-PEX560K)

## ■外形寸法図



## ■排気延長キットの据付

**安全上のご注意**

安全に関する重要な内容です。よくお読みのうえ必ずお守りください。  
誤った工事をしたときに、死亡や重傷等重大な結果に結び付く可能性が  
大きいものを「△警告」の欄に、状況によっては重大な結果に結び付  
く可能性があるものを「△注意」の欄にまとめてあります。

**ご 注意****△警告**

- 取付け工事は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼してください。ご自分で工事をされ不備があると、排気ガスの中毒や火災の原因になります。
- 取付け工事は、この“排気延長用アダプタ取付説明書”に従って、確実に行ってください。  
取付けに不備があると、排気ガスの中毒や火災の原因になります。

## 据付場所の選定

### !**警告**

- 排気トップの位置は、排気ガスが建物への給排気口や窓、または建物へ連絡する配管や通気口等から、建物に入らない場所に設置してください。排気ガスが建物に流入して、中毒等の原因になります。
- 排気トップの位置は、排気ガスが滞留しないよう大気に開放された、屋外に設置してください。  
排気ガスが建物に流入して、中毒等の原因になります。
- 排気ガスは、排水マスや溝等に直接排出する場合、周囲に悪影響を与えないところで、必ず大気に開放してください。  
排気ガスが建物に流入して、中毒等の原因になります。

### !**注意**

- 排気筒や排気トップと可燃物との距離は、図8、9の定められた離隔距離をとってください。  
この距離がないと火災の原因になることがあります。
- 排気トップの位置は、排気ガスが動植物に被害を与えない場所に設置してください。  
動植物に悪影響を及ぼす原因になることがあります。

## 排気筒延長時の制限内容

排気筒の延長工事を行う際には、下記の制限を厳守してください。

施工時の制限内容	制限値
外 气 温 度	-5 ℃以上
排 气 筒 の 延 長	5m 4曲がり以内
排 气 筒 の 勾 配	上り勾配 3/100以上

## 使用する排気筒部材の指定

排気筒は、商品名 KPパイプφ60シリーズを使用し、取付け金具類（受け足、二つ割）を含め、下記販売会社に現地手配をしてください。

販売会社 株式会社ホクアイ

本 社 札幌市西区発寒14条12丁目1-5  
TEL 011-665-8241、FAX 011-661-3452

東京支店 東京都墨田区東墨田1丁目1-2  
TEL 03-3617-3001、FAX 03-3617-3092

大阪支店 大阪市北区中津6丁目1-13  
TEL 06-452-1336、FAX 06-458-1797

## 排気延長用アダプタの取付手順

1

排気延長用アダプタの分解↓

- 1) 梱包箱を開け、以下の部品が入っていることをご確認ください。  
 排気延長用アダプタ × 1  
 排気TOP ASSY × 1  
 O-RING (P-70) × 1
- 2) 一度排気TOPを排気延長アダプタの奥まで差し込んでください。
- 3) 排気延長アダプタのストッパ金具を押しながら、排気TOPを矢印の向きに引き抜いてください。

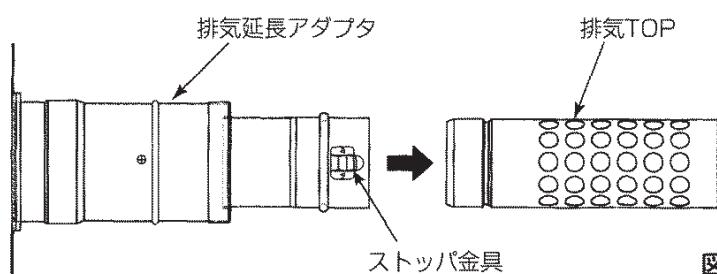


図 1

2

CAP及び排気TOP(標準品)の取外し↓

- 1) 室外ユニット上部に取り付けてあるCAP (M5ネジ)を取り外してください。
- 2) 同様に排気管が抜けないように注意しながら、排気TOP (M4ネジ×2)を取り外します。(潤滑剤を使用し、回しながら取り外すと、簡単に抜けます。) なお、M4ネジ×2は再利用しますので、紛失に注意してください。
- 3) 既存のO-RINGを排気管より、取り外し、付属のO-RINGを装着します。  
 この際、排気管のエッジは鋭いので、怪我に注意しながら行ってください。

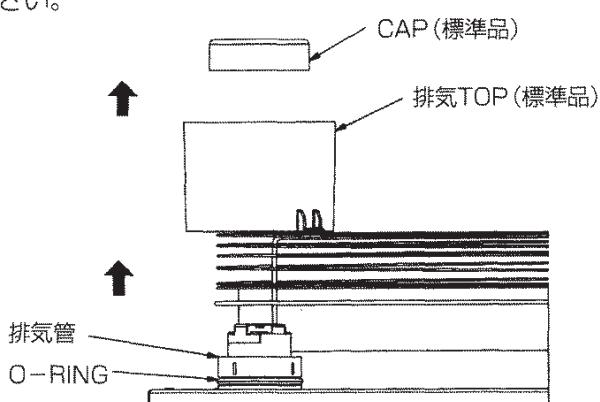


図 2

③

## 排気延長用アダプタの取付け

- 1) 排気延長アダプタを矢印の向きに、挿入します。(潤滑剤を使用すると、簡単に挿入できます。)
- 2) ②-2)で外したM4ビス×2を使用し、室外ユニット天面パネルに固定します。

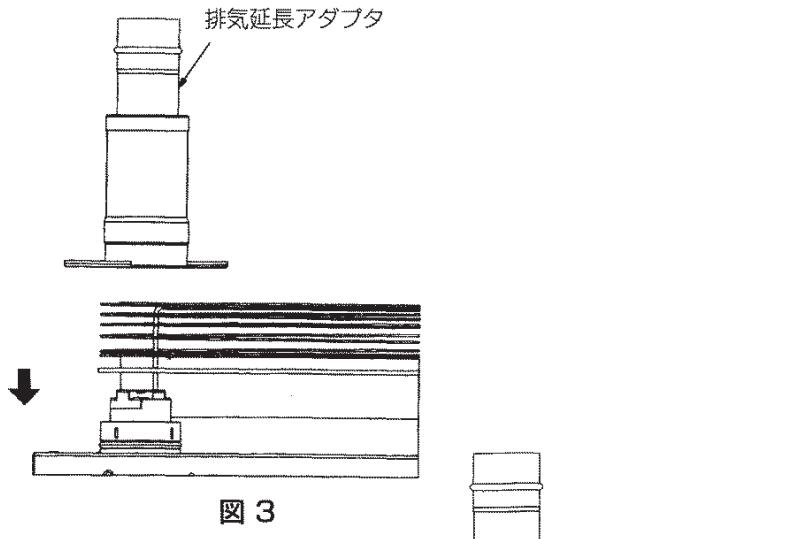


図3

図4

## 4

## 排気トップの取付

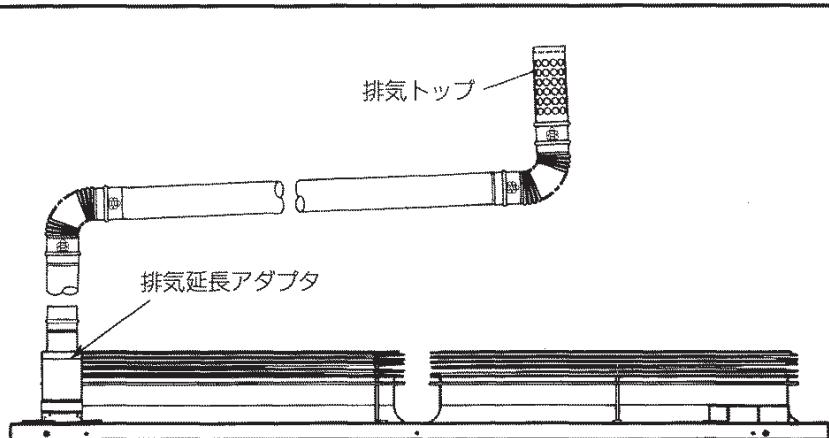


図 5

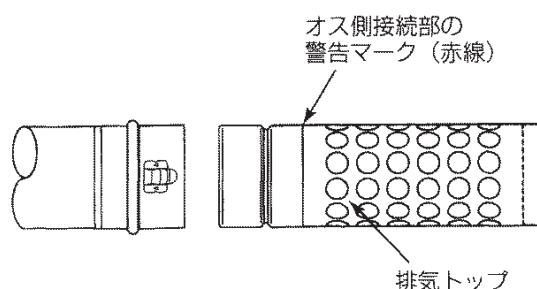


図 6

- 1) 排気筒最終端には、必ず付属の排気トップを取付けてください。
- 2) 排気トップとKPパイプの接続は、オス側接続部の警告マーク（赤線）のところまで、十分に差し込んでください。図6を参照してください。確実に接続されると「カチット」音がします。
- 3) 排気トップは、図5の様に必ず垂直に取付けてください。

## 施工時のご注意

### ① KPパイプ接続時のご注意

- KPパイプを接続する時は、オス側接続部の警告マーク（赤線）のところまで、十分に差し込んでください。確実に接続されると「カチット」音がします。図6を参照してください。
- KPパイプは絶対に切断しないでください。寸法の調整が必要な場合は、スライド管をご使用ください。
- その他に関しては、KPメーカーの取扱説明書に従ってください。

### ② 排気筒の固定方法

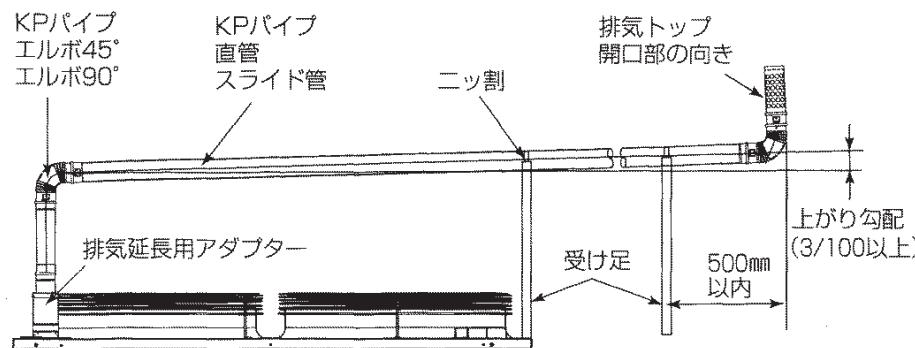


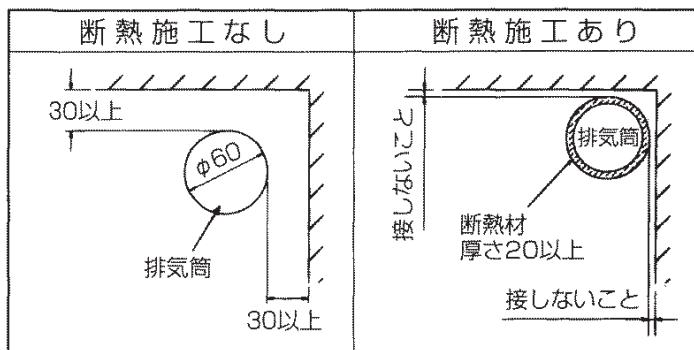
図 7

- 排気筒の固定は、取付け金具（受け足、二つ割り）を使用して現地加工を行い、ユニット天板のボルト・ビスを使用して共締めを行ってください。例として図7を参照してください。
- ユニット本体外に延長された排気筒は、取付け金具を使用して1.5～2.0m間隔で、外壁等に固定をしてください。
- 延長排気筒最終固定端からの長さ制限は、500mm以内としてください。図7を参照してください。

### ③ 排気筒の離隔距離

- 排気筒と「可燃材料、難燃材料または準不燃材料による仕上げをした建築物の部分等」との離隔距離(㎜)は、図8に従ってください。

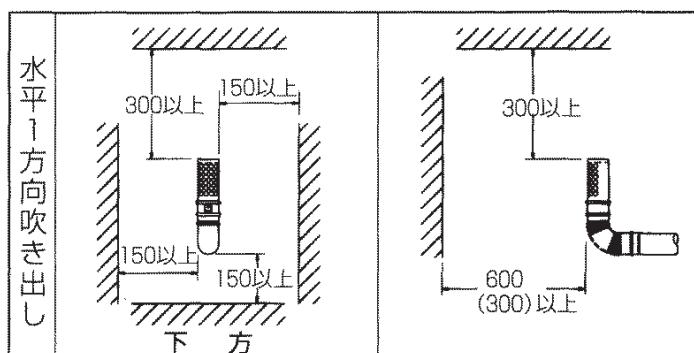
図8 (空間部)



### ④ 排気トップの離隔距離

- 排気筒の開口部と周囲の「可燃材料、難燃材料または準不燃材料による仕上げをした建築物の部分等」との離隔距離(㎜)は、図9に従ってください。

図9 (排気トップ周囲の離隔距離)



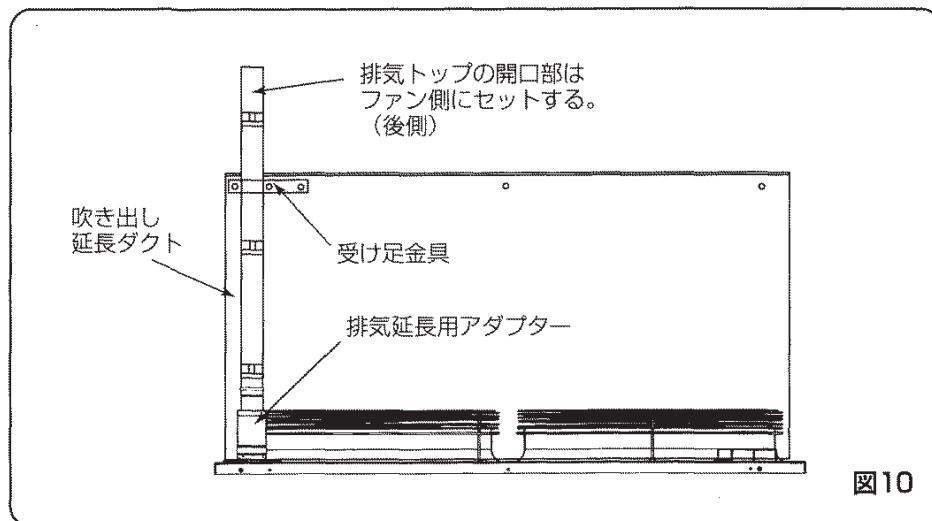
〈備考〉( )内の寸法は、防熱板を取付けた場合及び「不燃材料で有効に仕上げをした建築物の部分等」との寸法を示す。

## ⑤ 防振架台使用時のご注意

- 防振架台使用時にも排気延長は可能です。
- 延長排気筒の長さが500mm以下で、垂直に取付ける場合は固定の必要はありません。
- その他の場合は、取付け金具等を使用してユニット天板のボルト・ビスを使用し、共締めを行ってください。
- 例として図7を参照してください。

## ⑥ 吹き出し延長ダクト設置時のご注意

- 吹き出し延長ダクトを設置する場合は、ダクトの形状等から受け足金具類の使用が困難な場合があります。  
その場合はワイヤ等を使用して、ダクトやユニット天板のボルト・ビスを使用し、共締めを行ってください。
- 受け足金具を使用する場合は、例として図10を参照してください。



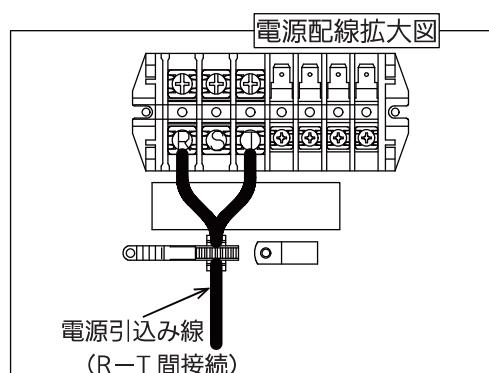
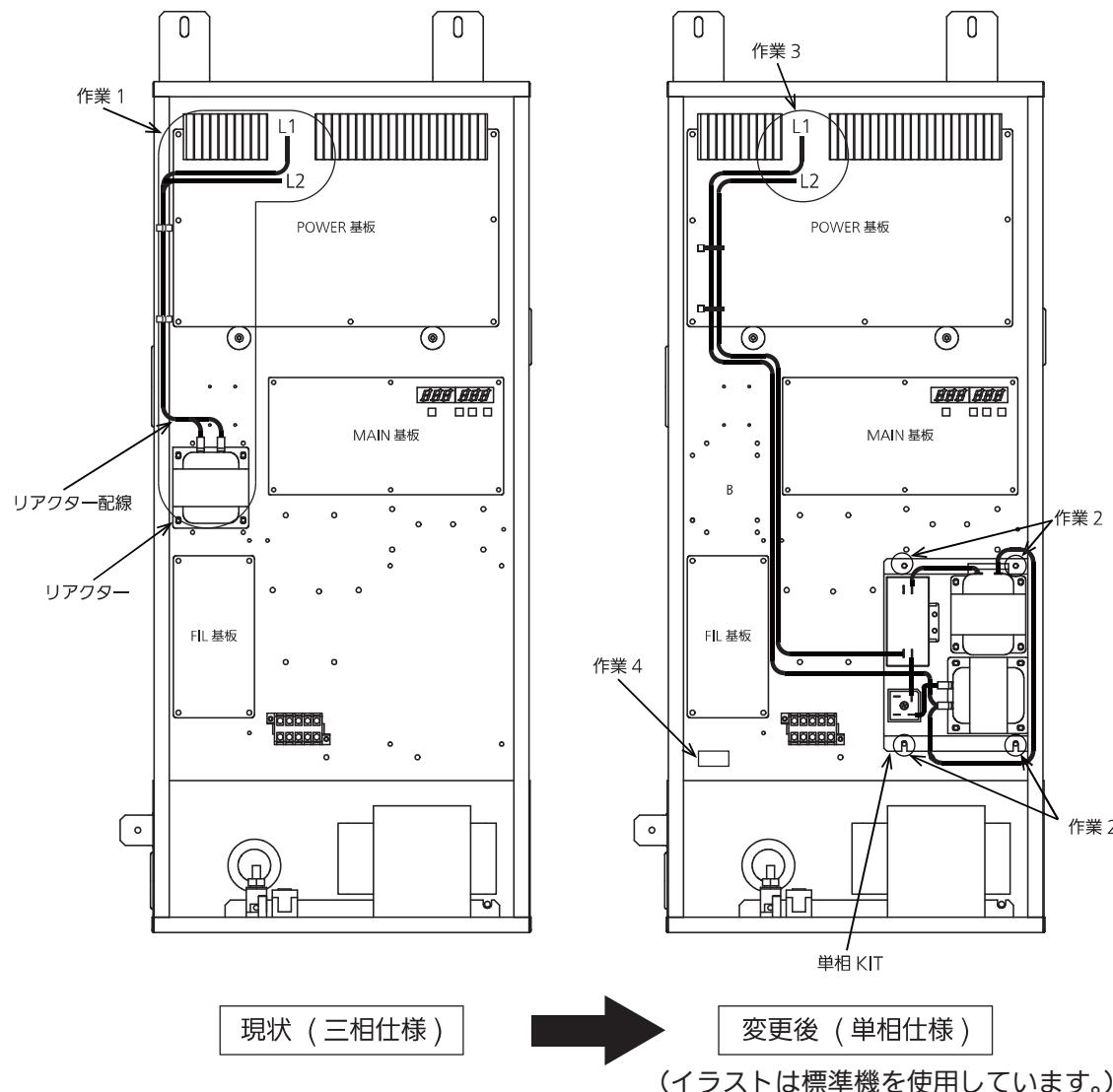
### 3. 室外ユニット関連部品

別売部品編

#### (2) 単相キット

CZ-GTK560U

#### 単相化作業手順



### 3. 室外ユニット関連部品

### 別売部品編

配線容量 (電源配線は 600V ビニール配線・IV 線を使用基準とし、現地手配となります。)

1/2

区分		三相 200V			単相 200V		
型式		224～355	450～710	850	224～355	450～710	850
スイッチ容量 (A)	A	30			30		
ヒューズ容量 (A)	A	15			15		
漏電遮断器	容量 (A)	A	20			20	
	漏れ電流 (mA)	mA	30			30	
	動作時間 (sec)	sec	0.1 以下			0.1 以下	
電源配線 (金属管・塩ビ管)	電線最小太さ	mm <sup>2</sup>	2 (65)	2 (35)	2 (29)	2 (39)	2 (17) 2 (14)
	こう長 25m迄	mm <sup>2</sup>	2	2	2	2	3.5 3.5
	50m迄	mm <sup>2</sup>	2	3.5	3.5	3.5	8 8
	75m迄	mm <sup>2</sup>	3.5	5.5	5.5	5.5	14 14
	100m迄	mm <sup>2</sup>	3.5	8	8	5.5	14 14
アース線太さ	mm <sup>2</sup>	2	2	2	2	2	2
ユニット間操作線太さ (室内外間)	mm <sup>2</sup>	0.5～2 (総延長 1,000m まで)			0.5～2 (総延長 1,000m まで)		

※電線最小太さの ( ) 内数値は、その最大こう長 (m) を表します。

※室外側の電源わたり配線はできません。

※室内側の配線容量は含みません。室内側に総合電源引込みを行う事はできませんのでご注意ください。

※電源側漏電遮断機の選択については保護協調をとられることを推奨します。

※本項に記載がない内容については「電気設備技術基準」「内線規程」に従って電気工事を実施してください。

注 1. 元電源を切った後、作業を行ってください。 ( 室外機の漏電遮断器ではなく、元電源を必ず切ること。 )

注 2. 電源配線は必ず R-T に配線してください。 ( 誤配線すると漏電遮断器が働きません。 )

作業 1 : リアクターと POW 基板間のリアクター配線を POW 基板から外し、  
リアクターも取り外してください。

注 3. POW 基板上の L1、L2 端子はポジティブロック端子です。 ( 無理して引っ張ると基板を壊します。 )  
必ず端子の樹脂ケースを押さえて引き抜くこと。

作業 2 : 単相 KIT を付属のビス 4 本で固定してください。

作業 3 : POW 基板の L1 端子に単相 KIT の白配線を接続します。  
POW 基板の L2 端子に単相 KIT の黄配線を接続します。

注 4. L1、L2 端子には極性があるため、絶対に白と黄の配線は誤配線しないこと。  
( 誤配線すると部品が破壊されます。 )

作業 4 : CAUTION LABEL (ACXF75-04600) 「単相に改造済」を貼ります。

作業 5 : 電源端子台の各 R、S、T とアース間でそれぞれ絶縁抵抗を測ります。(10MΩ以上であること。)

作業 6 : 元電源を入れて MAIN 基板の DOWN・UP キーを押して、NO.10 First を選択します。  
First の中の項目 Sou を 0 から 1 へ変更してください。

作業後 : 試運転確認を行ってください。

## (3) 遠隔監視アダプター取付金具 (CZ-CAPMB)

**Panasonic®**

## 据付工事説明書

### 遠隔監視アダプター取付金具

品番：CZ-CAPMB

適用ユニット GHP室外ユニット (U形・T形)

- 取り付け工事の前にユニットに同梱されている「据付工事説明書」と、この据付工事説明書をよくお読みのうえ取り付けてください。特に「安全上のご注意」は、施工前に必ずお読みください。また、この据付工事説明書はお客様で保管いただくように依頼してください。

## 安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



### 警告

「死亡や重傷を負うおそれ  
がある内容」です。



### 注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が  
発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容(禁止事項)です。



実行しなければならない内容(強制事項)です。

## 警告



### 必ず守る

- 付属品は当社指定の部品を使用する  
(指定の部品を使用しないと、水漏れ、感電、火災などの原因)
- 据付・電気工事は、販売店か専門業者に依頼する  
(感電・火災等の原因)
- 据付工事は、ユニットの「据付工事説明書」に従つて行う  
(感電・火災等の原因)
- 据え付けは、重量に十分耐えられる所に確実に行う  
(ユニットの落下による、けがの原因)
- 配線は、所定のケーブルを確実に接続し、端子接続部に、ケーブルの外力が伝わらないように固定する  
(発熱・火災等の原因)

- 据付作業中に冷媒が漏れたときは換気する  
(冷媒ガスが溶接バーナー等の火気に触ると有毒ガスが発生する原因)
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する  
(冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触ると有毒ガスが発生する原因)
- 電気工事は、電気工事士が下記に従つて行う
  - 電気設備に関する技術基準
  - 内線規程
  - 据付工事説明書  
(感電・火災の原因)
- 工事は、ユニットの漏電しゃ断器を切ってから行う  
(感電の原因)



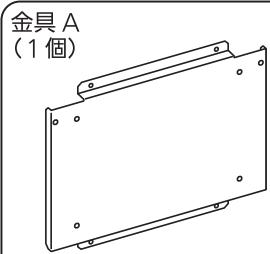
### 禁止

- 改造・改修は絶対にしない  
(修理はお買い上げの販売店または専門業者にご相談ください。故障や感電、火災の原因)

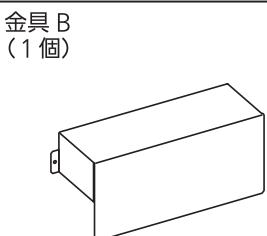
■ 据付工事説明書に記載されていない方法や、各説明書に記載されていない本体および付属品への追加工、指定の部品を使用しない方法で据え付けされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。  
また、その据え付けが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

## 1. 付属品

付属品は据付工事に必要なため、工事が完了するまで捨てないでください。



金具A  
(1個)



金具B  
(1個)

ドリルねじ(M4×10)  
(4個)



ねじ(M4×10)  
(2個)



ボルト(M5×25)  
(4個)



平ワッシャ(呼び5)  
(4個)



## 2. 取り付け位置

- 取り付け位置の選定に関しては、遠隔監視アダプター本体付属の説明書をよくお読みください。
- 金具Bにより本体に直射日光を当たりにくくしていますが、なるべく北向きの面へ取り付けてください。
- 機種により取り付け可能範囲が異なりますので、図2『取り付け可能範囲図』をご覧ください。

## 3. 取り付け手順

図1『取り付け状態図』を参照してください。

- ①取り付け位置を決めたら「金具A」を「ドリルねじ」で固定します。
- ②遠隔監視アダプターを「金具A」に「ボルト」「平ワッシャ」で取り付けます。
- ③「金具B」を「金具A」に「ねじ」で取り付けます。

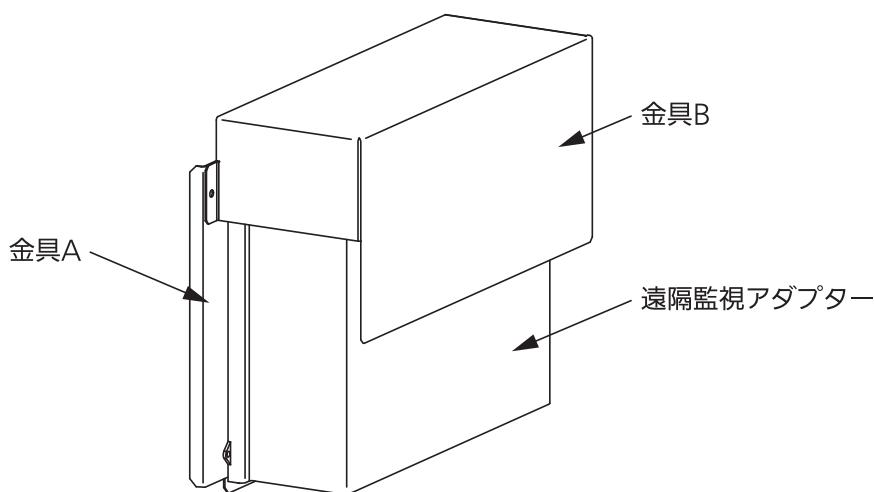


図1 取り付け状態図

※通信線の引き込みは、ユニット配線口を利用して下さい。  
通信線引き込みのために、パネルに穴を開けないで下さい。  
雨水侵入による機器故障の原因となります。

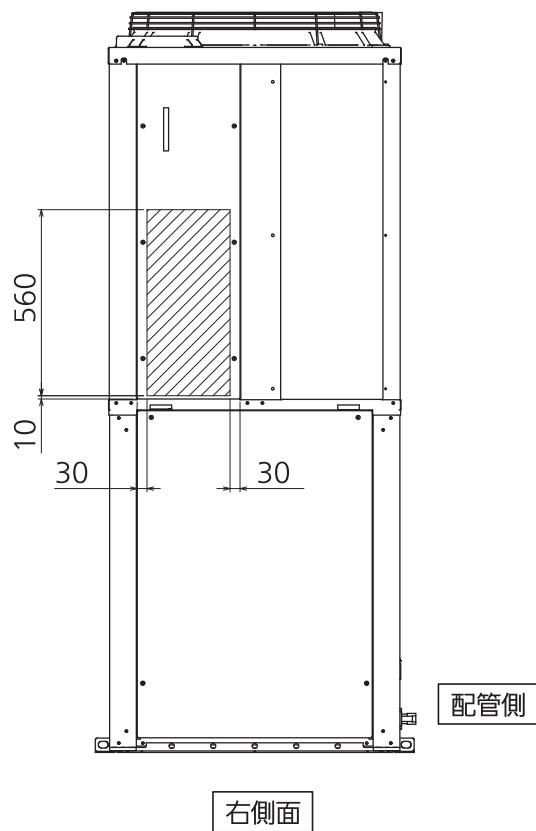
## 4. 取り付け可能範囲

図2『取り付け可能範囲図』をご覧ください。

斜線部が取り付け可能範囲です。

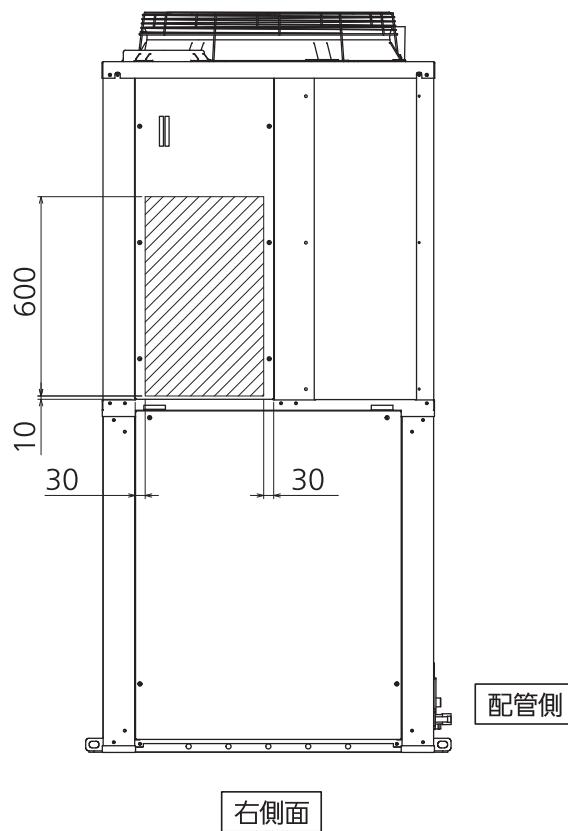
※G1形以降で図2に取り付け可能範囲が記載されていない機種は、お買い上げの販売店またはサービス会社へお問い合わせください。

■ GHP室外ユニット<U形>



左側面へも同寸法で取り付け可能です。

■ GHP室外ユニット<T形>



左側面へも同寸法で取り付け可能です。

図2 取り付け可能範囲図